愛國婦人

每月五日二十日發行
一部金参錢 一ヶ月金六錢 半年分参拾六錢 全國無遞送料
廣告料一行六拾錢
本號全部禁轉載
東京麹町區（牛ヶ淵公園）
發行所 愛國婦人發行所
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 大久保高明

◎本號には神奈川支部總會の寫眞附錄を添ふ

社說

餘裕

動物園に虎を見たる者は、虎が朝から晩まで、檻の中を右より左に、左より右に動き居るに、心付かれたるべし。腹ごなしの爲めか、他に仔細あるか知らざれども、斯くまで動いてばかり居られずとも、よささうなものなりと思ふことなり。されども、これは虎のみにあらず、人間にも隨分朝から晩まで忙しくして、一寸もくつろぎのなき者あり。固より眞に忙しくて、チットして居れぬならば、仕方なきも、一體人間は一寸も暇なきほどに、忙しきものなるか、忙しくせざるべからざるか、これ疑問なり、否疑問にあらず、明かに間違ひなり。人間は如何なる時、如何なる場合にも、餘裕といふものなかるべからず、胸中に閑日月あることは、英雄の專賣にあらずして、何人にも望ましきことなり。とても暇などはなしと、氣分いらだちて、こせ〳〵するより、人物の奥行見えて、つまり小人となるの外なきなり。論より證據、此人はと、人より傑出して見ゆるほどの者は、大概ゆつたりしたものにて、從て如何なる困難のことに臨みても、決して慌てず、徐ろに策を考ふるより、智計妙案出で來りて、正に人物たる所以を現はすなり。餘裕なき人は、その反對にて、何時も尻に火の附いたるが如く、さわぎまはるが故に下手ばかりやりて、その取繕ひ、仕直し等のために、一層手がかゝりて、これではやり切れぬと、汗を出して一人て騒動して居る樣は、虎に引較べて、御苦勞千萬といふの外なし。中には實際忙しくもなきに、外見のために忙しさうにして居る者あり、餘計なことなれば、速に止めにして、少しは雲の行方にても眺むべし。家事を良く治めて、夫や子にも薩張りしたものを着せ、自らも髪を亂したることなく、臺所も綺麗にて、何時見てもキチンとして居る内の主婦は、一向忙しげになきものなり。これ働く時には愚圖々々せず、一生懸命に働くより、用事早く片付きて、暇が多く、ゆつたりとして居らるゝなり。之に反して、朝より忙しさうにして居る内に限りて、つゞめがつかず、何時もどさくさして居ること、妙なり。要するに、人は心身共に餘裕なかるべからず、平時は勿論、怒るにも餘裕を以て怒るべし、泣くにも餘裕を以て泣くべし。家庭に於ても姑と嫁とが、互に餘裕を以て接すれば、風波衝突の起る氣遣ひなし。人に接するも亦然り。寛仁大度とは餘裕の異名なり。婦人は兎角量見狹きものにして、切り詰めたることを考ふるものなれば、この餘裕といふこと、殊に大切なり。此頃新聞などにてよく見る、若い者が、思ひ詰めたる所行に及ぶも、此餘裕といふ所に氣付かざるの致す所なり。されば女子を教育するにも餘りこせ〳〵せず、餘裕のある敎へ方をなすべし。餘裕は人に趣きを與ふるのみならず。また心身を平にして、長壽を與ふる妙法なり。如何なる場合にも、これでは叶はぬといふ氣を起すべからず、餘裕を以て一生懸命に働くべし、これ人生の秘訣なり。今や季節夏に入りて、流汗淋漓、負ふた子は泣き、飯は焦げ付き、夕日は差込み、蟬はいりつく如に鳴くの時も近づきぬ、この時這般の餘裕だにあらば、火も亦涼しからん。

この圖は世界の文豪として知らぬ人もなき英吉利の戲曲家シェークスピアが妻、アン、ハザウェーの生家なり。シェークスピアの故郷ストラットフォード、オン、エヴンの四方一哩の地シヨツタリーに在り。ハザウェーは良人なる沙翁よりは七歳の年長にて其の婚姻を結べるは沙翁が十八歳の時なりき。二人の中に三兒を生み、良人に後るゝこと七年六十六歳にしてみまかりぬ。

◎婦人に對する三つの要求

現在の東洋婦人には、幾多の缺點あると同時に又多くの長所あり、其長所に對しては、好きが上にも益々改善を講じ、進歩を計るは最も必要にして、我々の等しく冀望する處、又大に賀すべきことなり。併しながら、此社會が、男女兩性を以て兩立せる以上は、單に婦人のみの改良進歩を促すも結局効なきに終る可し、宜しく男子の改良は婦人の改良に先だつか、少くとも、同時に進むに非ざれば、能く其目的は達し難し。然るに、何れの國もその實際を比較すれば、男子の劣れる點少からず、殊に男女間に於ける道德の標準の如き、時の古今、國の東西を問はず、女子に高くして男子に低く、殊に我國の如きは、法律の適用すらも男女の間に差異あるは決して喜ぶべきことに非ず、早晩之を同一にならしめざる可からざるは、勿論なりと雖も、その方法は決して低きを標準とせずして、婦人は自己の身體知識道德の進歩改良を圖ると同時に、依て以て男子を矯正し改善し、自己の高き標準に進ましむるの覺悟なかる可からず。其矯正法は種々あるべきも、先づ婦人自分の持てる相當の權利に據つて、男子の我儘を防遏し、世間にては一概に婦人の不德と見做し居る、彼のヤキモチを燒き、男子を矯正し牽制するが如きも、亦有力なる一手段にして、男子の放縱爲す儘に任ずる如きは、決して相互の爲のみならず、社會進步の上に、喜ぶべきことに非ざるなり。なほ一步を進めて其根本に溯り、抑々幾干の相違あるかと問はんか、男子と女子との體力智力を比較し、何人も未だ明かに答ふる能はざるべきも、世界の狀態に鑑むるに女子は、漸次、男子の活動方面を侵し來たり、其仕事の高さ分量を、同じうして、女子の本分を盡さんとしつゝあるは、事實にして、將來此趨勢は那邊まで進み往くやに就ては、又何人も答ふるを得ざるべし。併ながら、仕事の種類は男女性格の相異なる處に伴ひて、自ら其別なかる可らず、恰も彼の戰時に於て銃劍を手にして、戰場に活動し、女子は赤十字旗をひるがへして、救護に盡力すると云ふが如き差異は、願くは將來何れの方面にも保存せられ、男子は日の如く光り、女子は月の如く輝きつゝ、共に相扶けて社會の完全なる進步を計るの覺悟あらんことを冀ふ、終に臨み、一言したきは、近時物質的の進步は、東西兩洲を密着し、彼の八十日世界一週の書出て、讀者をして、文明の力に駭かしめたるは、つひ此間の如く思ひ居りしに、今は五十日以内にて世界を一週し得るに至りぬ。斯くの如く、東西の接近するに從ひ、我の美點を輸出し、彼の長所を輸入するは、最も肝要のことにて、現に今日は盛に彼の風俗を輸入しつゝある際ながら、動もすれば、彼の地の風俗習慣作法を誤解し、爲に却て社會の風紀規律の根源となるべき基礎を壞亂するが如き例少からず、甚だ遺憾の次第なり。現に此程我邦に來遊せる日本贔負の或未婚外人が、中流以上の地位に在る某紳士夫妻及び令孃を招待したるに對し、某紳士は事故の爲、來たらずして、令孃を一人手放して其招待に應ぜしめたり。これ蓋し、紳士は泰西の禮を失はざらんと勉めたるものなるが、外人は之を見て大に駭き、獨身の男子の許に未婚の令孃を放して訪はしむるとは、日本はいかに亂暴なる風俗の國なるよと、疑ひ居たりと云ふ。是等は全く彼我の誤解より出でし實例なれば、今後益々進んで世界的交際を爲すに就ては、彼の地の社交界に於ける風俗習慣禮儀作法の重要なる事項を取調べ廣く世人に知らしむる最も大切なる目下の急務ならんと思ふ。

右は去にし六月二十五日、東洋婦人會創立三周年記念會に於て、東京市長尾崎行雄氏のものせられし演說を一記者が筆記せしものなり。且つ其演題も記者の假りに命けしなり。

此頃「新婦人」と題し本誌に紛らはしきものを送り來れりとて各地會員諸君より問合せ有之候へども當發行所は右雜誌に何等の關係無之候間此段廣告候也

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

彩色使用法に就て（貴婦人方に望む）

小山正太郎

世間の人々に希望するのは、彩色の使用法と云ふ事に大いに注意して貰ひたいとである。色の眼識の深淺によりては、品位の高下を定むるのみならず延いては一國の品位にも關する事がある。而して其使用法なる者は、全く婦人の權内に屬して居るのである。今や我國は戰勝國として國勢の發展著しく、從て外國との交際も漸く頻繁となる、其所で其衝に當らるゝ社會上流の婦人中彩色使用法の眼識を全からざる場合には、啻に其人の品位を墜すのみならず、國家の體面よりして其威信を缺くとが深大である。依て國家に對する上からも、是非一言貴婦人方に望みたい次第である。

四方に散在してある器具は、何品を問はず樣々に彩色を施してある、けれども葬式用具に至りては全く之と異り、日本にありては白色西洋にありては黑色を用ゐるの外決して彩色を施さぬとなつてある。之は偶々以て人類が嗜好に對し反應の理を示す道理にて、即ち人類の生存中は、彩色の嗜好と云ふ事は離るべからざるものにして、其終了を俟ち、其嗜好の絶滅する者にて、即ち葬式用具に之を用ひざるに依りて、證明する譯である。

或は彩色は贅澤物にして衣食住の定まりたる後に用ゐる者であると説く者あり、之れ大なる間違であると思ふ。彼の野蠻人の狀態を見ても分るとて、その食物は草根、木實を料として、衣類は草や木皮の織りたる者を着するも、身體の裝飾には重きを置き、其裝飾に用ゐる赤土や何かは、種々の色合を撰んで彩色を施して居る。又家屋もなく穴居の體であるのに、其構造には樣々の富んだる彩色を施こして、裝飾を加へて居る。是等を見ても、彩色が如何に人類の生活上缺くべからざる理由があるかが分る。

又小兒の生れて還ふ時代即ち大人と比較して何等の識別力を有せざる頑是ない時代と雖も、既に彩色眼のみは發達して居る。試に五六名の子供を集め、樣々の彩色ある玩具を與へて見ると、各見とも其中に付き極めて美麗なる玩具のみを望む狀に徴しても明かである。

彩色は人間精神の營養上にも缺くべからざる者にして、恰かも身體の榮養に滋養ある食物を缺く事が出來ないのと同じく、彩色なるものは人間精神の榮養上實に有要なる食物である。其例を擧ぐれば、泰西の或國では罪人を罰するに彩色を見せぬ刑罰がある、即ち暗室に入れる事である、其典獄の話によると、入牢の初め、一兩日間は晝寢などをして居るけれども、三日目位からは、煩悶苦惱して堪ぬ狀を呈し來る、夫に反し絶食刑罰の如きは、最初一兩日間は、苦惱の體なるも、日を經るに從ひ、前者よりは寧ろ平靜を持し居るといふとである。之を見ても、彩色が如何に精神の榮養に關するかが分るのである。

又遠洋航海者の實驗談によると、船客が毎日同じ海色の靑々としたのを見て居ると、一種の苦痛を感ずる、其所で船室には濃厚なる彩色の裝飾を要する、陸上の夫に比較すると極めて俗である、夫は、連日海色の靑々したのを見て居る目には、如斯濃厚なる裝飾は偉大なる慰安の料を與へるからである。之に依りて見れば、彩色は人間と離るべからざるの關係ある事が確に分るのである。

實に彩色は、凡ての生物と離るべからざる關係を付與してあるのである。蟲類中蝶の如きは、羽根に樣々の彩色を與へてある、之れは美しき心を招くに大關係がある、而して人の目を引く事は、彩色ほど強き者はない、實に彩色は人に感動を與ふる唯一の物である。

外國人が或る國に遊んでも、其土地の空の色や、海の景色や、山水の風景等が直に目に付く、人と交際する時も、衣類其他の色合がすぐ目に付く、故に吾國民の現在に使用しつゝある彩色を見たる外國人は、何と感ずるであろうか、或は内心て輕蔑して居る者があるであらう、誠に國の品位に關係する事であります。社會の上流に在りて交際さるゝ、彩色使用の全權者たる貴婦人にして、其眼識低き時は、一國の損失を招く事となる。元來工藝作品は、何れの國に於ても、其國の上流婦人の好まるゝ色に依て製作さるゝものにて、從て其色彩の幼稚なる時は、單に國内の需用には用ひらるゝも、到底外國へ輸出する事を得ざるとならん。彩色眼の完備せる下に製作せる工藝品は何れの國と雖も、他品に比し高價に販賣さるゝのである、實に幼稚なる彩色は、一國の損失を招く所以てある。（以下次號）

耕の圖　佛國マリーロサヌボール嬢筆

嬢はボルドウの人千八百廿二年に生れ七十七歳に死す近世の婦人畫家中世界に其比を見ざる大家なり此圖は耕作地に日光の映じたる所にて實に巧妙を極めたるものなり

女子の本務

松村介石

日本に於て女學生とか、女子教育などゝ名稱する樣になつたは、丁度明治七八年頃で最初の内は殆んどキリスト教主義の女學校のみであつた、其頃政府は竹橋女學校とか云ふものを創立した。其頃の女學生と云ふものは、非常に氣慨のあつたもので、所謂志士の氣風を存して居た、國家とか社會とか云ふ觀念が甚だ燃えて居つた、夫れて學校へはひる者は學問する爲めなので、今の樣に嫁入りの一資格を得る爲めに女學校を卒業すると云ふ樣なことはなかつた、衣服の競爭とか容姿を作ることなどに思ひを煩はす等のことなく、只精神の修養に專一になりしが亦其缺點としては、家事の事が出來ぬ、即ち女らしい點を失したのである、そこで家庭を作るに當つて非常な不都合を來たしたのは、第一西洋主義の教育を受けた者は、嫁として思想上から家人と折合が六かしい、又世間の交際も學問上の事か國家社會的の話しにてもなると、如何なる男子と相對しても遜色がないがさて知己親族とか、普通の交際になると甚だ圓滿に行かぬ。或は來客の時手料理で食事を出すことも知らぬ、又茶菓を進めることさへにも氣付かぬと云ふ有樣てある、夫れであるから家庭に於ける嫁又主婦としては、遂に大失敗を來たしたのである。社會は女子の學問、即ち教育を受けたる者を大變嫌はるゝ樣になつたのも、無理からぬのである。

其後此反動として一時は、專ら女子に技藝教育を仕込むやうになつた、然るに之れが主婦となるに當り、家事や日常の事には不都合もないが、精神の發達して居らぬために教育ある男子の妻としては甚だ物足らぬのみならず、子供の教育も母として甚だ智識が足らぬ、斯る有樣て社會は再び女子の學問を獎勵する樣になつた、夫れて明治三十二年頃から、全國に高等女學校を設けると同時に、家事や技藝等にも重きを置き、即ち女らしい教育をすると云ふことに勉めたので、略ぼ完全に近い現時の如き女子教育となつたのである。

而し自分をして憚る所なく云はしむれば、現時と雖も眞に覺悟ある根本的の教育が行はれて居るか否やは、甚だ問題であると思ふ、第一結婚するにも夫とすべき本人に重きを置くより、位地や財産と結婚せんとする者が、年々增加するが如き傾向が見える、又社會事業や慈善事業に從事するにも、其活動の意味を明らかにして、從事する者はなく、多少虛榮に馳られ一種の流行に連られ居る樣な人も少なくない樣である、斯くては、婦人一般の傾向が甚だ不眞面目であると云はねばならぬ。

殊に何人も望むスウキートホームなるものは、浮いた考へを以て結婚したる家庭に於ては、到底見られぬ、男女とも同じてあるが、位地や財産、容貌や勢力等、之れ決して人生に眞の幸福を齎す所のものでないことを自覺する樣な教育を、女子にも施さねばならぬと思ふ。殊に丁度今は日本の社會に於ては、スウキートホームを作り得らるべき時期である。近時は男子が妾を置くと云ふやうな醜行は、昔から見ると餘程減じた、敢て男子に同情する譯ではないが、妻子ある身で好んで遊興に耽ける者は多くない、家庭に於て其妻たる者は、能く注意して男子を慰藉するとに、全力を注げば男子は決して家庭外に樂しみを求めんとはせぬ者てある。

夫れて、女子は先づ女らしいと云ふ上に、自己の本分を明らかにするだけの、精神教育が必要であると思ふ。教育の變遷に鑑み、時勢の變化を知ると共に、自己を發展さするとを勉むるは、家庭のため、社會のために尠なからぬ益あることゝ思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會員に望む

衆議院議員 臨時市區改正局長　角田眞平

いつぞや奥村五百子さんから、是非一度愛國婦人會に出て演説をするやうにと云ふ御話がありましたので、神田の錦輝館へ參つて御一緒に演説をしたことがありますが、其後の樣子は覺えて居ませぬけれども、多分東京と云ふ土地の舞臺の演説は、是れが奥村さんの最終と思はれます、眞に殘念な事を致しまして、今から追懷いたしますと眼に見えるやうに思はれます。

さて私が愛國婦人會の爲に御話をすると云うても、別に何の考へもありませぬが唯感じた點を一寸述べたいと思ふ。

近時は大分女子の敎育が盛んでありますが、私は其の敎育ばかりを言ふのではありませぬ、文字及び講釋、即ち眼から入るもの、耳から入るものゝ、机上の敎育のみでなく、女子が働いてくれると云ふ點に於て、今の意味が實行されなければ甚だ工合が惡いと思ふ。それに付ては、戰時と平時とに於て、大層な區別があつて、戰時には大層働いて、平時には寢て居ても宜いと云ふやうな考へが往々浮むものであります、所が戰時に働けるのは平時に準備して置くからであります。

日露の戰爭が濟んだから、もうこんな事はないと思つて居ると、いつどう云ふ事が起るまいものでもない、世の中の事は總て不意の出來事に備へる爲に、國民が重き負擔をして、有ゆる設備を政府に依賴してあるのでありますから、愛國婦人會員となつた御連中は、既に自分の人に依賴して居る事すら右の譯であると云ふことに氣が注いたならば、是れは人事てないから靜かな時、即ち國の健康な時に歩けるだけ歩いて置いて、いつでも寢ることも出來れば一服することも出來るやうに準備がしてないと、事の起つた時に役に立たないと思ひます、そこで不思議なことは、隣家の主人の話が宅の主人の說より耳新らしく聞える。又筋向ふの家の麥飯が宅の白い飯より工合が良いやうに思はれるものであります。それで國家の表面に立つて難關に出會ふ役目は固より男であると云ふことは申すまでもない、併し其男を慰撫してくれる人が矢張男であると、隣家の主人の話、筋向ふの家の麥飯ではありませぬから、味ひが鮮らしくありませぬ。そこになると婦人の手に依り婦人の言葉に依りて慰められると、却て其の困難を忘れて、是れはこんな事ではならない、もう一つ奮發せねばなるまいと云ふ氣になります、此の點に於ては、婦人の手と溫き赤心が何よりの清涼劑であります。

さうして今日は事々しく女に付て研究すると云ふ時代のみでなく、極く古い時代から恐多い事がありますから、それを誤解なく頭に入れて置くと、愛國婦人會などの御方は、良い心掛になりはせぬかと思はれます。其所で昔の引合を一つ御話して見ませう。

檀林皇后と申すは嵯峨天皇の后でありますが、眞に賢德な御方であつて、佛法を御信じになりましたが、御崩の時に、遺骸は野邊に捨てるやうにと云ふ御遺言て、遂に西の郊の叢に捨てられましたが、鳥獸の餌食となつても顧みないと云ふことを御決心遊ばされたのは、いかに高貴な者でも後には斯樣なものであるから、人は奢りに長じて世の勸めを忘れてはならぬと云ふ深い御考へであつたと理解すれば眞に有難いことであらうと思ひます、併し、然らは親の屍を野に捨て仕舞つても宜いと云ふやうに考へると大間違でありますから、そこは注意しないとなりませぬ。

さて此のとは大昔の事で、佛法の事ばかりでありますが、佛法であれ耶蘇敎であれ、或は家事の都合に依て何宗にも關はることが出來ぬとした所で、婦人の身體を今更婦人でなくしたいと云ふ譯にはいかぬのでありますから、婦人となつた以上は、男子の缺點は婦人に依て補つて頂きましたならば、それが即ち一國の幸福とならうと思ひます、冀くは、平時にあつても、氣を緩めずに、着々御擴張なされたらば宜らうと思ひます。(未完)

小說

苔清水

米光關月

學校の暑中休暇になつたのは六月の末であつた。未だ梅雨の最中て、ともすると袷羽織が行李の中から取出される陽氣であるのに、もう暑中休暇と名の附いただけて、都會の地には腰が据らぬ樣になる。

關口須磨子も亦其一人であつた。

須磨子は、東京を北へ二十里斗り離れた或る淋しい山間の產れであるが、僻村には珍らしい奮發家で、殊に女には珍らしい學問好きであつた。生家は餘り有福て無い上、須磨子の上に二人の兄と一人の姉がある、下には三人の妹と一人の弟がある。だから何うしても彼は他に嫁すべき身分で、さも無ければ何かの職業によつて身を立て無ければなら無つた。

須磨子もそれは可く知つて居た。しかし彼の容姿は餘り他に好かれぬ方であつた。別段何處が惡いと云つて、取立てる程でも無いが、其顏には渺しの旨味も無くて、なんと無く他に忌れる樣な相であつた。彼も自分の容姿の甚麼であるかと云ふ事を可く知つて居た。其自己を知るの餘り、職業によつて身を立て樣と云ふ志も増々固くなつた。彼の撰んだ職業は敎師である。爾來彼の勉强は大したものであつた、其精力も亦驚くべきものであつた。目出度某校を卒業して、又某校の助敎を務める事になり、始めて自己の理想として居た職業に就く事となつたのは今から三年前である。

須磨子は玆に多年の目的を達したが、決して心に怠慢を生ぜ無つた。女としては相應の報酬のある身であり乍ら、決して他の女敎師に見華美な風が無つた。何處迄も山家の素朴を守つて、種々の耳痛い噂をされるのも無頓着て、一向專念貯蓄に志した。すると妙なもので、例の帳面に毎月記入される金額が面白くなる、其金額の殖えるのが、何より樂しみになつた。而して其殖えて來る金を心に計算して居ると、或一種の强味が自分に加はる樣て、現在の地位よりもう一歩進んだ或る目的が遂せられる樣な心持がする。

ア、須磨子も遂に女であつた、一瓶の香水にさへ、其金を惜んだ。他の噂がなんであらうと、唯殖えさへすれば可いを目的として居た彼も、其目的のものが殖えれば、又其目的以上のものが得度くなる。彼は窃に其殖えたもので、自分の容姿に於ける缺損を慥に償ふものと考へて居た。

鄕里には卒業後一度歸つた斗りて、其後は唯塵深い街にこの貯金の快樂にのみ耽つて居たが、今年は是非鄕里を訪れる心算で、其暑中休暇を待つて居たのであるから、いよ／＼休暇となつて見ると、矢も楯も堪らぬ程歸り度い。

漸く一身の自由を得て、汽車に乘つたのが、梅雨に入つての二十日目、五六日じめ／＼と降り續いた雨がからりと晴れて、それは／＼沸え返へる樣な暑い日てあつた。

須磨子は停車場へ降りると、餘りの暑さに車に乘らうかと思つたが、例の勤儉貯蓄主義から、何處迄も徒歩と决心して、馬糞に蝶のひら／＼と舞ふ度び、目がぐら／＼となりさうな山道を、健氣にも獨りてく／＼歩んで行つた。

二里許り歩んで稍急な坂道に掛ると、都會の平坦な地に馴れた足は餘程困難であつた、漸く登り詰めて其處の一軒茶屋に腰を卸した時は、もう物を云ふ事も出來無い程であつた。元より淋しい往來であるから、誰れ一人其暑い盛りを通るものが無い、茶屋の婆さんは須磨子が幼少の時から玆處を通る度び見掛けるが、一つも年の寄らぬ婆さんで、聾の得には人に愛嬌を列べるでも無く、默つて茶を出して默つてこくり／＼居睡りをやつて居る。

須磨子は一と息吐くと、信玄袋の中から西洋手拭を出したが、それを持つて前の淸水へと進んだ。其處は小山の崖下になつて、鬱蒼した櫪の木がある樹下の風は有繋に凉しいもので、其木の下に立つともう云ふ斗り無く可い心地であるが、須磨子は堪忍に堪忍を重ねて來たので、胸の動悸は昂る、額の汗は未だ出止なんな。

小さな淸水は恰度其樹の根に湧いて居るので、半壁斗りの溜になつて居る。眞に淸い、見るから凉しさうな水であるが、其上から大木の枝を擴げ掛けて居るので、いよ／＼淸く凉しいのである。

須磨子は先づ口を嗽ぐ心算で、其淸水の上に覗くと蒼々とした淸水は樹の葉の映りで增々蒼くなり、鏡よりも可く自分の顏が映る。

塵風に亂れた庇髮は、全然ランプ掃除よりも甚しい、その亂れた髮が額の汗のためへばり着いて、心掛も惡いが見る目は我乍ら氣味が惡い。眉は一の字に昂つて、眼は凄じい鋭い光を持ち乍らしかも濁つて居る。須磨子は一と目見ると淺間しい姿だと思つた。醜い顏は取り繕つても、醜いものである。それが唯我の爲めに綾振りも關はず、唯車賃儉約のため、這麼姿になつたかと思へば、我乍ら有繋に淺間しい。

「往來の人は私をなんと見たゞらう。」

女は猶且女である。貯金の通帳だけでは這麼時强味にならぬ。須磨子は急ぎ淸水て體軀の汗を拭くと又茶屋の椽端に腰を掛けて暫く考へた。身内の汗がすつかり引切つて、始めて凉しい風に肌が觸れると、心の悠然なるにつれて愈々女らしい考へが起る。

それはこの度びの久し振りの歸省に、唯我のためから、多くの弟妹に土產物を買はなんだ事である。姉さん／＼と寄つて來る妹弟に一つの土產も無いとは、我乍ら餘りに貯金帳を大事にした。今淸水に映つた自分の顏も醜いが、それは又一段と醜い事であつた。

「貯金帳に出を記して買ふ事も、時には必ずあるのである……」

と、須磨子は此時切に／＼感じた。

「里村へでも着いたら、この申譯けに菓子でも買つていつてやりましやう。」

と、須磨子はいよ／＼女らしい心になつたが、さて新に勇氣も加つて來たので、其處を出立べく、再び例の淸水に口を嗽いだが、今度は鋭い眼の光りも無く、無論濁つても居無いて、女らしい眼は可成涼しく其凉しい淸水に映つた。(終)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

飲んで害なきだけの酒量に就て

醫學博士　土田卯三郎

愛國婦人第百三十號三頁の家政と云ふ欄内に「飲んで害なきだけの酒量は何程なるか」と云ふ問ひに對し、三宅博士の家事衞生の講義を拔萃して答てあるが、小生は此の講義錄の原本を讀まざるも拔萃記事の瑞西國の醫師云々に就て一言致さんと思ふ。

酒精問題は久しく種々に議論せられた、併し有害にして無効たるとは三宅先生の述られたる如くである、殊に最近の種々なる方面の研究結果は、又一點の疑ひを挿む餘地がない、即ち換言すれば酒精は量の如何に係らず全然有害のものである、酒精は如何なる人又如何なる時と雖も決して生活需用品と認むる場合更になし。

作併三宅先生の述られたる如く、酒精の禁斷と云ふとは非常に困難である、已に一部の人は之れを實行して居る故に全く不可能ではないが、中々六ヶ敷い、故に已に飲酒の習慣となりたる人は節酒するより致方ないが、然に最も注意す可きは未だ強度の飲酒習慣なき人就中小兒及壯年者にして、飲酒を初めんとする人物は、此酒精の非常なる有害物にして且つ一度飲酒の惡習に染む時は、又容易に脱すべからざるの恐れあるを思ひ大いに自ら謹まざる可からず。之れと同時に兩親殊に母たる者は家庭教育上に於て注意せられたれば其の効果甚だ大なる者であらう。

酒精問題は梅毒が大にしては國家問題とす可き如く、酒毒の害は慥に其以上に位する大問題である。クラフトエービンク氏の風刺せし如く、文明は梅毒と變質と相關聯し相移行すると云ふ如く、吾人人體の變質の原因は酒毒に基くと梅毒に起因するより以上にある。

酒精の害は生活體の凡ての器官が侵さるゝのである、二日酔の胃病は主に酒精の直接刺激に由るが、一度體中に吸收したる酒精作用の尤も著き影響を受くるは、神經系で即ち酒に酔たると云ふは腦に酒精の働きたるに過ぎない。故に酒精の害に就ては、諸學者より研究せられたるが就中神經病、精神病學者に由て證明せられてある、殊に最近獨逸國、瑞西國等にて小生の目擊したる處は、中々盛である、其研究の結果は、神經病及精神病等の原因の過半は、酒精の罪として居る、瑞西國の癲癇病院の報告などでも兩親の大酒家たると大多數である、即ち酒精の害は只々飲酒家自身而已ならず、害を子孫に及ぼすのである。

數十萬の財產を遺されたる親の厚恩は感謝す可きであるが、精神病、神經病の原因が兩親の不攝生に基くと識りたる時は、其子兒は兩親に向て如何なる感念を起すであらう乎、假令身は錦衣玉殿の榮あれども、若し病の爲め醫師より結婚を禁じらるゝ如きは、生涯の不幸此の上なからずや。

三宅先生の講義中に瑞西國の醫師の說に一定量の酒精は格別の害がないと書いてあるのは、其は報告が古いのであるか、否らざれば其醫師一個人の考へならん。酒精の量は一般の人に向て、其量を一定するは不可能であらう、即ち見易き例は酒量は各人異なる如くである、量と人と害とは各人不同である、毎日一升以上の大酒家にして七八十歲以上に長命する人もある、又其の反對もある、之れ誠に一般人をして酒毒の疑ひを起さしむる所以である、之れ先天的に各人の素質の差である、故に凡ての人に向て量を定めると云ふとは不可能である。

最近學者の研究は酒精は全然有害と確定され居る、瑞西國の精神病學會に小生招待された其際某教授が、日本に神經病、精神病は多き乎、日本人の飲酒の程度は如何と問はれ、禁酒法へ充分行へば神經病、精神病は消滅する故に歸朝後は之れに向て大に盡力せよと云はれた。

作併飲酒の習慣ある人が急に禁酒する時は一定の障害がある、例之ば食機不振、羸瘦、元氣沈衰等を來し飲酒家をして一種の恐怖心を起さしめ、再び飲酒を初むるに至る、此の障害は多くは一過性のものにして、漸次に除去せらるゝと雖も、普通夫れ迄堪へ得ないのである、獨逸國の或る大工場にて英斷を以て職工の飲酒を禁斷せし時、工夫が元氣を失ひ事業に堪へなくなりし爲め再び之を許した例がある。之れ其方法の宜しからざる爲めにて甚だ先見のなき致方である。斯る場合には瑞西國の醫師の云ひし如く、節酒法を行ひ漸次に禁酒に至らしむるが宜しい。

小生が茲に拙文を草する主意は、瑞西國の醫師が一定量の飲酒は無害なりと云ひしとを信じ、少年者等の之により飲酒を初めんとするは最も恐る可きことである。殊に世人の知る如く酒量は漸々增量する而已である故に、其初に於て謹むとが肝要である。

食物貯藏について

遺民子

物の腐るのは細菌の爲である、細菌が物に寄生いてそれを食物とし肥料として段々蕃殖し、遂に其物を變質せしめるのである。例へば餅を貯へて置くと其始は細き絲の樣なものを餅の面に生じ、それが靑色となり黃色となり遂に黃色の粉が飛散するに至るものである、之を顯微鏡で見ると最初の細き絲は細菌が芽を出したのである、其が靑色となるは芽が成長して花が咲いたのである、其次に黃色となりしは實を結んだのである、而して黃色の粉の飛ぶのは其實が十分に熟して飛散するのである、其飛散した實は長く生きて居て、種々の物に付着して黴びさしたり腐らしたりするのである。是れは細菌蕃殖の一例であるが、細菌即ちバクテリアには種々の種類があッて、絲狀菌、球狀菌、桿狀菌、螺旋狀菌などそれ〲物を腐らす狀況を異にして居る。細菌といふものは植物ではあるが、普通の植物の如く葉綠も細胞核もないもので、他の物に寄生するに都合よく出來て居り、其實は無性胞子といッて雌雄の別もなくて實を結ぶとができ、自身が分裂しては蕃殖するのであるから、蕃殖が大層迅速である。故に氣候が溫かで濕氣を帶びて居る物に寄生すると、忽ちに蕃殖して其物を腐らして仕舞ふのである。此節料理などの速く腐るのは此譯である。

斯樣に蕃殖力の強いものであるが、寒氣には閉口するのである、故に一年中にて寒中は最も蕃殖力が弱い、昔から寒の水は腐らぬといふのも此季節には殆ど水中の細菌が蕃殖し得ないからである、それゆゑに寒酒粉、寒餅など珍重されるのである。之に反して當節即ち梅雨の頃は氣候が暖くて濕氣が多い爲に、最も蕃殖力を逞しうして忽ち物を黴びさしたり腐らしたりするのである。

されば此細菌を防ぎさへすれば物は腐敗しない道理である、されども細菌といふものは肉眼では見えぬ細いものであるから、空氣中に浮游して居つて物に寄生するのである。例へば雞卵の腐るのは其殼の透間より空氣と共に細菌が侵入して腐らすのである、故に雞卵の內部へ空氣の這入らぬ樣にすれば腐敗らぬ道理であるから、アラビアゴムを雞卵の殼に塗りて貯藏するのは此道理から考へた仕方である、即ちゴムで以て殼の透間を塗りつぶし細菌の侵入を防ぐのである。

併しながら外部よりの侵入を防いでも、既に防ぐ前に細菌が這入つて居つたならば腐敗は免れない、故に右の仕方は未だ十分とは行かぬのである。十分に防腐の效を收めるには、細菌を殺すと同時に其後の侵入を防ぐ方法を取らねばならぬ、是れ即ち罐詰の仕方である。此仕方は有名なる細菌學者スチユール氏の考案に出たものであつて、熱の力にて食物中の細菌の實を殺し盡すと同時に、鑵が密封してあつて外部より侵入するとの能ぬ工夫である、此發明に由て衞生上食物貯藏の一大進步を來したといふべきである。

右は細菌の通路を塞いて這入らぬ樣にしたのであるが、前に述べた如く季候を寒冷にして即ち空氣を冷たくして細菌を防ぐのも大に効力がある、即ち冷藏庫の仕方である、尤も是は大掛りのもので、一個人の家では用ゐられぬものであるから、氷箱といふものが西洋では盛に行はれる、近頃は我國でも段々行はれるやうになッた、併しながら是れとても最小なるものが四五十圓もかゝり、其上に毎日氷を費さねばならぬから、先づ相當な生活の家庭でなくては用ゐ難い。

上來述べた所は孰れも十分に防腐の効力ある方法であるが、生活の低い我國の一般の家では殘念ながら普通に用ゐるとができぬ、のみならず品物によりては斯樣に鄭重なとの出來ぬものもいろ〱ある、されば不十分ながら手輕く貯藏法を施さねばならぬ場合が甚だ多いのである、それは如何なる仕方であるかといふと從來行はるゝ乾魚、干物などである、是は食物中の水分を除き去ッて細菌に侵されぬ樣にしたものである、是は簡單な仕方であるから十分でない、梅雨の候などに濕氣を帶びると黴がはえるといふ心配がある。

又食物中の蛋白質を凝固せしめて細菌を防ぐ仕方がある、是は鹽漬である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供くらぶ

馬の春衣

巖谷小波

年の暮のことでありました。ある有福の家では、主人夫婦を初として、隠居も子供も皆別荘の方え、避寒に行つてしまひましたから、家には女中や下男ばかりが、留守番をして居たのであります。

すると或晩のことです。この女中や下男達が、もう寢靜まつて居りますと、何者とも知れず臺所へ來て、戸をコト〳〵云はせて居りましたが、やがて中へ入つて來たと見えて、ミシリ〳〵と云ふ足音が聞えます。

女中のお綱は目を覺まして、

『オヤ盗人ぢやアないか知ら……盗人ですよ〳〵！』

と、隣に寢て居る朋輩のお鞍を起しますと、お鞍は寢惚けながら、

『ナニ、盗人だつて？そんならうつかり出ない方がいゝ、うつかり出ると怪我をするよ。アヽ桑原々々！』

と、蒲團を素被つてしまひました。

その中に臺所の方では、ジヤア〳〵と云ふ水の音や、ガチヤン〳〵と云ふ皿、小鉢の音が頻りに聞えて來ましたが、足音は其邊ばかりにして、奥の方へ來る樣子がありません。

けれども氣味が悪いので、女中達は少しも眠られませんでしたが、皿小鉢や水の音は、殆んど一晩中聞えて居て、やがて夜が明けさうに成ると、其儘音も聞えなくなりました。

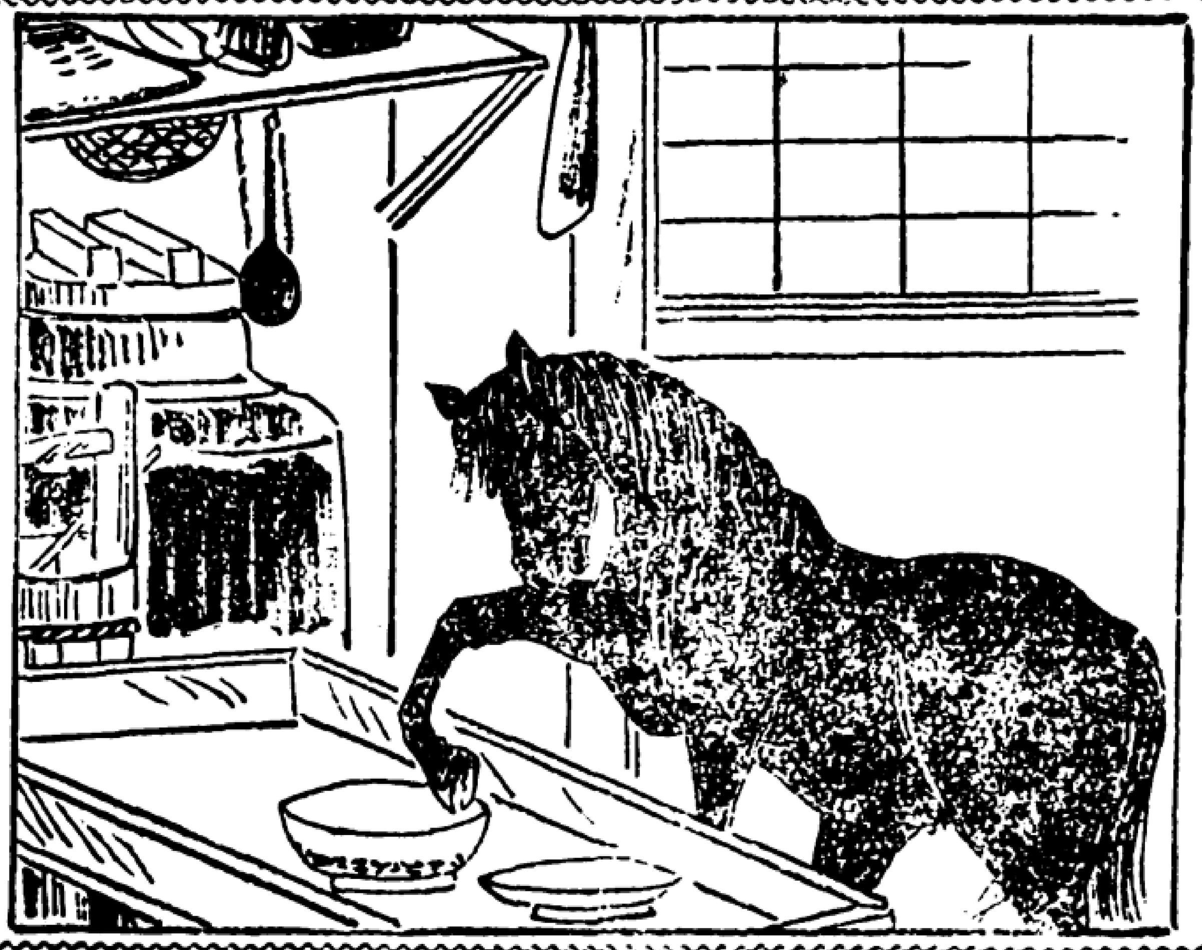
さて朝になりましてから、恐々臺所へ行つて見ますと、皿、小鉢は一つも無く成つて居ない斗りか、宵に汚れたまゝてあつた物さへ、皆綺麗に洗つてあるのです。

『まア不思議ぢやアありませんか！何と云ふ盗人でせう？』

『ほんとに好事な盗人ねエ。だが、かうして綺麗に洗つて置いて、それから持つて行く心算かも知れないから、今夜は用心して居ませう。』

と、女中達はまたこの事を、下男の午助に話しますと、午助は夫れを聞きまして、

『それはどうも飛んだ事だ。かうして旦那樣も奥樣も、皆御留守に成つて居る間は、云はゞ乃公達が此家の主だ。それに、その主に斷りも無く、勝手に人の臺所へ來て、皿、小鉢を弄具にするとは、何と云ふ太い奴だらう。よし、今夜は乃公が不寢番をして、その盗人をふん縛つてやらう。』



と、非常な意氣込て、その晩は宵から六尺棒を持つて、臺所の隅に隠れて、盗人の來るのを待つて居りました。

その中に夜も更けて、奥の時計が二時を打ちますと、彼方の戸口がコト〳〵云ひ出します。

『來たぞ〳〵！今に見ろ、撲ちのめしてくれるぞ。』

と、午助は手に捻をかけて待つて居ましたが、やがてその戸口が明いて、ヌウツと入つて來た奴を見ますと、盗人と思ひの他、一匹の黒い裸馬ですから、午助はギヨツとして、

『何だありやア馬ぢやア無いか！何處からこんな物が舞ひ込んだらう。』

と、また隠れて見て居りました。

馬は又それとも知らず、ミシリ〳〵と入つて來て、まづ鼻で戸棚を明け、其處にあつた皿、小鉢を見ると、今度はまるで人間の樣に、前脚二本を手の樣に働かして、その皿、小鉢を抱へ出し、洗槽下へ運んで行つては、まるで女中達のする樣に、それを一々洗ひ始めました。ガチヤン〳〵、ジヤアとは、その時聞える音なのであります。

午助はまるで夢心地、只ボンヤリ見て居りますと、馬は精出して洗物をすると、またそれを戸棚にかたづけ、

『ヤレ〳〵、これで今夜は濟んだ。だが、用が濟んでしまつたら、急に寒氣が感じて來た。もう直きに正月だと云ふのに、まだ乃公は丸裸……あゝ春衣が一枚欲しいなア。』

と、溜息をついたと思ふと、其まゝ何處へか消えてなくなりました。途端に納屋ではコケコツコウ！もう夜が明けて來るのです。

すると女中部屋の方から、お綱とお鞍がやつて來まして、

『午助どん！何うお仕だエ？』

と聞きますから、午助は初めて正氣付いて、

『イヤ何うも不思議だ〳〵！あんな不思議は見たことが無エ。』

と、夜半からの事を話して聞かせますと、女中達は顏を見合はせて、

『まア、それぢやア盗人ぢやア無くつて……。』

『裸馬だつたのかねエ。』

『それにしてもその馬が、よく人間の樣に働けるぢやア無いか。』

『何でも只の馬ぢやア無いのに、何故お前さんは捕へて見ないんだねエ。』

と、云はれて午助も頭を掻き、

『おほきに其奴は私がぬかつた。おやア今夜も又來るだらうから、今度こそ捕へて、何者だかよく聞いてやらう。』

と、元より主人夫婦は留守で、別に用事もありませんから、下男も女中もその事ばかりに掛つてしまひました。（つゞく）

赤蜻蛉

東の畑は
茶の株羅
此處來い
ちら〳〵
赤蜻蛉

西には
菜種の花盛り
東の畑の蝸牛は
今朝夜が明けぬに
此處行つた

東の畑は
犬卯木
どぶ〳〵雨降れ泥沼の
蛙に喰はる
赤蜻蛉

◎新刊紹介

○世界寫眞帖　瀬川書房發行（麹町區上六番町三〇）本書は世界の地理、風俗を網羅し加ふるに簡明なる解説を附す愛國婦人會會員には特に五圓五十錢にて販賣する由

○愛の光　ツェー、スツルツエネツゲル女史著（神田區駿河台鈴木町二十二）本書は瑞西通信記者ネツゲル女史日露戰役紀念として編著せしものなり愛國婦人會會員には特に五拾錢にて販賣する由

讀者に告ぐ

愛讀者諸姉中御轉居の時其御移轉地の御報知を得居らず處舊住居地御記入無之爲め調査に不便は云迄もなく事實多數の讀者名簿に對し調査致兼ぬ場合有之候間爾今新舊住居地御報知相成りたく候

◎曾て本誌に於て募集せる「男子に對する希望五個條」は打柄諸姉の御投稿を得し處過般所内異動の際該原稿不明と相成りし就ては再度御寄書の程相煩はし度此段特に希ひ上げ候

七月　愛國婦人發行所編輯局

廣告

夏の化粧

日にやけぬ法
白粉はげを防ぐ法

日に焦けて黒くなりますのは餘り見好い物で有りません又誰方でも好んで黒くなさる人はないでせうがつまり血液の中に含んで居ります鉛分が其の媒介者となりますので早い例が海水浴場などでは直に黒くなります之を防ぎますのには第一に汗を出さない樣に注意しなければなりませんがなる可く多くの水分を攝らない事と外出する時には必ず柔き皮又は布で顏を摩き後に完全な化粧水（ローヤル水の如き）を塗る事です化粧水は白粉の附着を良くする爲又皮膚を美麗にし外からの毒の侵入を豫防する爲にも是非男女共必要な物ですが其の品質の良否に依つては白粉の有害と同じく非常に衞生上害が有ります殊に追々と暑くなりまして御婦人などは白粉がハゲたり日にヤケたりするが劇しくなりますからどうしても化粧水の必要が起りますが今の化粧水の多くは不完全な物でして昔から其のまゝの化粧下（ヘチマの）水と殆んど同じ性質の物で有りまして單に白粉下に用をなすのみで夫れ以上の效能がありません西洋と日本の化粧水の長所を折衷し之れに數多の藥種を配劑して最も進歩し且つ化粧水の模範として辱しくないのは東京銀座佐々木商店發賣のローヤル化粧水のみです販賣店は全國至る處の化粧品賣藥洋物小間物店に有ます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎愛國美談 百萬圓に適する後援は愛國婦人會

竹柴彥三(脚色)

此すぢがきは去にし六月廿二三四の三日間東京赤坂區水會々員達の發起にて演伎座に於て催せる慈善演藝會にて演せしものにかゝる

(序幕)第壹

舞臺は足立勝治青山住宅の場、爰に學友進藤郁藏、小林庄作の兩人訪問し居るを勝治の養父勝照是を謝し、談日露開戰の事に及ぶ、郁藏言へらく、今回の戰爭に付ては苟も軍籍に在る者は盡く召集の命を受ると聞く、足立君は未だ其命なきや、勝照答へて謂ふ、今日輜重輪卒に召集の命を受けたり、今こそ零落はしたれども、元某は幕府の旗下、斯く難有き明治の聖代に遭遇したる其國恩を報ずる時節の來るを待內圖らずも此度の戰爭、勝治が召集に相成りしは報恩の時節到來一意彼が身命を拋つて國家に盡す事を願ふのみと。此言を聞き郁藏、庄作大に感じ、郁藏は嘗て清語を研究し陸軍通譯となり同く國家に盡す所存なる事を語り、後刻召集の地にて勝治君に面會せんと約し、兩人は辭して去る、折柄出征準備の買物を調へ養母と共に立歸りたる勝治を呼び近け、後事は必ず憂ふる勿れ一心國家ある事を知りて家ある事は思はず、奮進國恩に報ぜよと論す、之を聞たる勝治が妻おはるは妊娠の身殊に病に侵され重き枕を擡げ御出征の後は假へ石を食むとも病を癒し、必ず生計の路を立れば安心出征あれと言ふに、勵され勝治大に悅ぶ、件にて舞臺廻る。

(同く)第貳

舞臺は青山兵練場內の場、爰に郁藏は勝治を見送りの爲め來り待つ、所に勝治、先に庄作、勝照、同妻つる、勝治の長男太郎、次男次郎等來り勝治は袂別に臨み、忠孝の二字を書したる紙片を出し忠の一字は太郎、孝の一字は次郎に與へていふ、是ぞ父が紀念なるぞ、忠は兄と思ひ孝は弟と思ひ斯くして兩人共此二字を忘るゝ事なく兄弟相思ひ、相睦みて成長の後ち忠孝兩つながら全き者となつて國恩に報ゆべしとの言を殘して別るゝ件にて幕。

(貳幕目)

舞臺は勝照住居の場、爰に勝照並に妻つる、孫の三郎を抱き勝治は戰地に於て病死し、はるは產後の肥立惡しき爲に、遂に死去して今は老幼貧苦に迫るを歎き居る折柄愛國婦人會員清水せつ子、同く令孃花野よし子の慰問並に金品の贈惠を受け、兩婦人は此の悲境に陷る老幼を慰め立歸る、況して老夫婦は常に赤坂區徵兵慰勞義會の扶助を受けしのみならず、又愛國婦人會或は軍人家族慰問婦人會等より屢々慰問に預る事を感喜し孫等に諭すに成人の後は父の遺言を能く守り、忠孝の道を全ふし國家の爲に盡す所あつて此の鴻恩を報ずべしと訓諭せり、爰に小林庄作來り只今戰地に在る郁藏氏よりの書狀に同氏は首尾能く陸軍通譯官となり、第二軍司令部附となつて戰地に赴き、然るに勝治氏も亦第二軍に屬し居て病死なせしも殊功有つて特に準戰死者として取扱はるゝ旨、追て通知あるべきも、先づ不取敢報道すとの文意を語る、是に於て勝照大に悅び斯くてこそ祖先並に慰問せられし方々へ面目ありと勝治が靈前に謝し、國家の後援たる婦人會の厚情に感泣する件にて結局とす幕

英吉利十九世紀の詩人ウキリアム、ウオーヅウオースの妹ドロシイは終生兄の傍らに在りて、兄を助け勵ましぬ。ウオーヅウオースが詩人として今日の名あるはドロシイの內助に負ふところ頗る多し。今左にその日記の一節を抄出す。

(このドロシイの日記抄はウオーヅウオース三十二歲にしてドロシイ三十歲の時のものに係る。)

△十二月十七日。木曜日。夜分雪降りてやまず。出てゝ見ればアムブルサイドの眺めいとも美しく、見も知らぬ國の村かと覺ゆ。遠の山々は輝くばかりにて白晝の如く明らかに、夜とも覺えず。空はなほ紺青に澄みて見ゆ。湖邊に水禽の啼く聲す。アムブルサイドの丘の空に木星の光かゞやかしく、ライダル湖とは反對の丘の片隅の空に大きやかなる星一つかゝれり。(アムブルサイドはウキンダアミア湖に近き小さき町。ライダル湖も蘇格蘭土の湖水地方の中に在り。)

△二十六日。土曜日。今日はグラスミアの湖水靜かなる姿して、明らかなること鏡の如く、萬象悉くその中に映ず。紫煙れる湖水、淡黃色の野面、綠黃ばめる湖中の島、鳶色したる矮き木叢、紫罩むる山々、寺、家々、悉くその物靜けさ!

△一月二十七日。水曜日。おだやかに麗はしく晴れたる朝なり。日は照りて、湖水は靜かに澄み、岸邊は隈なく水にその影を映せり、兄上の十四行詩を淨寫す。

ウオーヅウオースは其の詩作に甚だしく苦心したる人にて、時には十度以上も草稿を書き改めたりといふ。ドロシイは其の度每に喜んで淨寫の勞をとりき。かゝる事實は日記中處々に見えたり。この點のみに見るも兄ウオーヅウオースが妹ドロシイの助力に負ふところ多かりしは知らるべし。

夏季の樂

一水

夏季の樂はずゐぶんいろ〳〵と慰むべき途に富んで居る、一體四季の內で一番身體に異狀を受け易い時は晩春より初夏に涉り就中梅雨季である、殊に本年の如く不順の季候であると壯健者と雖もなんだか心持が惡い、況して身體の一部に何か故障でもある病者の身は又格別である、從て名什佳作も得難きのは實に道理ある譯である、而し梅雨も最早餘日がない旬日を出ずして陰雨は晴れるであらう、其代り炎帝威を逞うする季節がすぐ來る、其所で此の酷暑に際しては今迄の氣工合の惡かりしを確かに取返すだけの樂の途を得たいと思ふ、避暑の目的で清風閑地へ旅行するのは無論宜しい。又海邊に遊びて水泳をするのも惡くはない、けれども、寧ろ之を遠きに求むるよりは、近き都下に介在する公園地に遊び、綠樹鬱蒼の下に居を擇み、一日の綠陰讀書又は感想を詠歎其他に行り、次日には更に地を代へ南方面に遊び、斯くして都下幾十の公園を漫步餘すなくして其間の記錄を蒐集し、爰に始めて都內公園周遊記なる一大紀行文を作成し得らる。定めし其趣味の豐富にして珍なる資料を求め得らるゝ事と思ふ。殊に方法の簡單なるだけに何人も之を行ひ得らるゝではないか、試に日比谷公園內の夕景又夜景を見よ、何れも耳目を樂ましむべくして、我々の清遊を迎へつゝあるてはないか、財を投じ好んで趣味を遠きに求むるに比し、或はより以上の樂天地を求むる事が出來るかと思ふ。

思潮

◎文學博士井上哲次郎氏は、神田青年會館に催せる女子教育講演會に於て、日本女子の將來と題し、過去四年間の女子教育の沿道を數字に依り詳述したる後、現在の教育に及し、其間適切の事例を引證せられ、猶男子の教育經過を對照して、歐米各國に於ける學の割合程度殆んど男子の其割合と接近せる今日女子が進步的にあるを喜び、其末節に於て女子獨立生活の問題に說き及ぼし、殆ど定義に近き論斷を下されたり。之れとて曰く「女子の獨立生活は目今の問題なるも、非難す可きものにあらず、此結論あれば婚期を逸したりとて決して憂ふるに足らず、離て良緣の來るを待つを得可し。然し日本に於ては男性より女子の數著しく少數なれば、女子は機會を得ば良緣を求めて結婚す可きなり。良妻賢母主義は日本固有の教育に於て到底離る可からず、畢竟男性も進み女子も進步せば乃ち文明は進むなり

◎東京每日新聞は六月廿九日發兌の紙上に三種の諸君に告ぐと題し文明の社會には、豪傑以外に三種の勢力あり曰く青年、曰く婦人、曰く勞働者是れなりと說き、其婦人に對して曰く「婦人の活動力は諸公が之を冷笑せる間に進步し、今日に於ては諸公も亦社會的一勢力として之を認めざる可らざる迄に發達したるに非ずや、愛國婦人會や婦人矯風會の活動は、明かに其の恐るべき勢力あるを諸公の前に證明したるに非ずや」近時婦人の活動が秩序的に發達しつゝあるは依之證するに足る、然れども此活動たるや慈善行爲を全うする爲にして、社會に對し或る意味的勢力を發展する者に非ず。

◎世界の日本は其第三卷第二號に於て東洋の覇權を握れる我國を本位として次の評論を試みたり曰く日本外交政策の成功は何人も認むる所なり。日佛協約成り次て日米日露協商說出づ、吾人は中心より之を歡迎す。只、此際我當局者が協定成立の形體的榮譽を食るに吝なるの餘、我權利々益を犧牲とすることが如きことのなからむを望む。次きに又歐洲の天地が觀察し「英國皇帝の大活動は歐洲外交界の焦點たり。皇帝、曩に西班牙を訪問し、又最近佛伊を歷訪して今や進むで獨國を見舞はむとす。而して一面に於ては平和會議に軍備制限案を提議せんとするあり。吾人は我同盟國皇帝陛下が益々活動して世界平和の爲に努力せられむことを特に切望す。」と結論せり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

愛國婦人（一等）　福井　簑輪貞子

いつも入會をおすゝめ下さつたが、こんな田舍に居て、愛國も婦人會もあつたもんぢやない、自分の事さへやつと仕末して行くのに、人のと迄かまはれるもんか、そして何があつたつて一生に一度もそんな會などに出られるもんぢやなし、と腹さへ立てゝお斷りして居ましたが、雜誌だけは讀んで聞かせて貰つて居りました。ところが此度那須村の話を聞いて、ほんとに感心しました、どうぞ仲間に入れて下さいまして御世話を願ひます、と野働きの短い着物にすげ笠かぶつた儘、勝手へ見えし隣家のおかみさん、其狀や天眞の體、思はずも『幾たびもよめばいつしか國をおもふめてたき人となれるふみ哉』と口ずさみぬ。

評曰　撰者の喜び何事か之に過ぎむ

同（二等）　福島　横川千賀子

月更る毎に、待たるゝものは愛國婦人なりけり。配夫がもち來る數葉の雜誌はいつも文机の上にありて、愛讀しつゝよみ得ぬ子供下女に迄讀み聞かするもいと樂し。社説に論叢に、扨は衞生大家の講話に、婦人には殊に必要の家政、育兒を事細やかに讀み得らるゝぞうれしきや。北の海に住み給ふ大和撫子にたとふる姫君のけだかき三十一文字、扨は西の果なる姊君のやさしき御文に文机のもとさへ、偲び出られてなん。さるにても筆取り給ふ君達の健かに、いよ〳〵此ふみのとこしへに隆盛ならん事こそひたすら願はしけれ。

評曰　讀も亦健全にいつまでも愛讀を給はん事を冀ふ

同（三等）　群馬　伏島たき子

愛國婦人は、婦女子の良友なりなどゝはいふまでもないと、その文辭が簡潔で、其上に極めて平易につくられてあるので、意義が能く解せられ、殊に大部でないから、養蠶中などのいとまない時ですら、皆の者が煙草休みをして居るまにも、一篇づゝ位よめるので、何よりもうれしくおもひます。まして毎號和歌や短文や俳句などが、丁度花のさきみてるやうに、紙上を飾つて居るのですもの。

評曰　いそがしき事業のひま〳〵に讀み給はんと選者の願ふ所になん

同　京都　渡邊豐子

朝露しげき生垣の內より書よむ聲の聞ゆるがゆかしさに、思はず立ちよりてかいま見れば、年は漸やく十四五の少女が、はし近う座して愛國婦人を餘念なく讀み居るなりけり、聽てその聲はやみつ、と見れば目を閉ぢて何やらん思ひふけるの體、暫らくして徐ら鬢の毛を撫であげつゝ、愛らしき口は堅く結ばれたり、そも何に感じて何を心に得たるらん。

同　青森　吉田安子

愛國婦人會が出征將士の後援として、去る三十四年二月呱々の聲を上げてより、御國の爲に濕へる大和撫子は、都と鄙との區別なく會を助けつゝ聞き、後れ馳なる我が村も報國の一念より、數十の心ある人々が集ひて其の支會とせるものは、都に遠き陸奧の深山中、折しも四方の大會や或は支會の狀況を鮮も細かにもたらして、塵外の里に一條の光明を與へつゝあるは愛國婦人なり。

大口鯛二大人選　夏の海

天　兵庫　河本久米

やくがごとてりつきてもこゆるぎの磯の松蔭夏なかりけり

評曰　世のうさもあつさもこゝに忘るらん涙こゆるぎの磯の松陰

地　山口　末田竹子

いそ寺のかねの音遠く浪にきえて浦風涼し夏の夕ぐれ

評曰　浦風にふきおくらるゝ鐘のおとの消えゆくものは暑さなりけり

人　群馬　伏島たき子

友はゝや病いえけりもろともに夏をすごさんこの海べにて

評曰　相思ふ友と旅寢の磯やかたいかに心もすゞしかるらん

○甲

月もよし舟こぎ出てん海原に都かへりの君つれだちて　岡山　横川明子
波の音に暑さわすれて書をよむ海邊のやどは凉しかりけり　東京　麻布　敏子
みしか夜の月は波間に見えながらはや明そむるちぬの海はら　大阪　全田つるえ子
夏の夜の月をやとしてあら磯に碎くる浪は凉しかりけり　岡山　藤波音子
學ひやの友と語りて海面の旅寢たのしき夏休み哉　青森　大橋八佐子
水泳き船ゞする人みなのむれてにきはふ夏の海原　青森　大橋のふ子
汐あみに集ひし人はかへりゆきて夕月凉し大いその海　山口　末田貞節子
夏くれば汐あみ人のつどひきてこしちのうみもにぎはしきかな　長野　高橋きよ子
暫しまもやすらふ磯の松蔭に夏の暑さを殘してぞ行く　福岡　松山光子
夏毎に舞子のうみにしほあみてあそふもみよのめぐみなりけり　京都　池田美登
はてもなき青海原に舟うけて凉む夕は夏なかりけり　青森　田島正子
夕立の晴ゆく沖の島かけて入日の海の虹うつくしき　岡山　武田須[illegible]
あつさをは磯打波に洮はせてたもと凉しき夏の[illegible]つら　靜岡　里見ゆう子
松風も磯うつ波もしづまりていと凉しき夏の夜半かな　東京　土師利根子
夏くれは海つらの里うらやまし凉しき月に舟遊びして　岡山　西村長子
吹送る濱風すゝし和田津海の龍のみやゐは夏なかるらん　東京　田中まつ子
ゆふ風をしらほにためて沖へよりすゝしさはこふ夏の海哉　群馬　木暮千代子
日盛のなかめも凉しわたつみのたつの都や夏なからまし　北海道　日向克子
いさりえてかへるかた帆に嬉しくも夕風おくる夏のうみ哉　福島　爲田よしの
夕風に吹かれてかへる白帆船よそめもすゝし夏の海原　仝　人
幼子のかよわき腕にろをとりてこぐ舟涼し夏の海原　北海道　安藤喜美子
あつき日はいつしか西にをさまりてあみひくあまの影の凉しさ　仝　人
汐あみの人の歸りし夏の海にみゆるもすゝし海士のいさり火　福島　横川兼子

○乙

月晴れて浪路も滑く須磨の浦暑さ忘れて遊ふ舟人　山口　內藤まさ
灘あみて歸るさ磯の松原にめぐりあひけりなしへのおやに　岡山　横川明子
もしほたくあまのすがたもきえはてゝ月さえ渡る夏の海原　仝　人
わかれさす日をたえ〲にあま人か夕暮歸る聲の凉しさ　山口　高山霞曉
やすらひて松の葉こしに見渡せば舟路すゝしき夏の濱はら　鹿兒島　藤野綻
雫波につかれし鱸捕らへんとあまが子つどぶ夏の海か那　三重　西山ひさゑ
夏の海見えみ見えすみ救ひ呼ふ船にひと浦人涙のたつ　仝　人
夏の海に魚浮ぶかと見ゆるかな涙に消えゆく水くゞろ松　仝　人
もしほやくけむりもたえてなつのよの濱原わたるふれぞ凉しき　靜岡　萩原さだ子
いとまえてやから揃ひてうみのへに夏をもよそに遊ぶたのしさ　仝　人
きん〲のなみよする磯を君と二人そぞろあるきぬ月出し夜に　新潟　沼部秀子
須磨明石うちよする波の花の上に小舟うかへて夕涼みする　岡山　西村長子
いつ〳〵よりこきて來つらん海原のボートレースの影のかゝしさ　大阪　佐野鼠子
雨はれて沖のしまやま見えそめぬなこりのつゆを松にやとして　山形　阿部さゐ子
和田の原沖にいざよふ船見れば夏のさかりも知らですぎけり　岡山　山崎露子
をちこちに宿れる船に月さえて夏の海邊のにぎはひにけり　三重　莊司種
ちら〳〵と帆影のうつる須磨明石氣も晴れ渡るなつの海原　[illegible]
夏の海岩に碎くる白なみの音さへ凉し海士が家の里　同　人
夏の日のあつさわするゝよさの海なかめにあかぬ天の橋立　京都　岡澤仲子
海原や男波女波の打寄せて暑さ忘るゝ磯の松蔭　靜岡　小川須磨子
見渡せばなみめなみのうちよせてあつさをしらぬわかの浦風　愛知　神林[illegible]美子

內藤鳴雪大人選　俳句　田植

天　住吉や桃山振の田植衣　三重　西山數子
地　植ゑ終へし田に神風の渡るなり　青森　佐藤くに
人　田植すんで寢ねたる一と夜二た夜哉　東京　秋元小菊

○

ほとゝきす鳴音を空に田植かな　山口　末田貞節子
節ちがう田植の歌や嫁姑　東京　木村駒子
雨もやう明日は田植の夕哉　青森　吉田やす
解けし帶に人手を借りし田植哉　同　人
花嫁の小聲にうたふ田植かな　同　田島正子
長雨の跡は田植の日和哉　同　津幡とし子
老人のふしおもしろき田植かな　山口　末田竹子
若き人の笠もならべて田植哉　山形　阿部さゐ子
笠ばかり見ゆる谷間の田植かな　福島　佐藤とく子
花嫁の歌もまじりて田植かな　靜岡　小川須磨子
夫婦して睦じげなる田植かな　同　人
兎もすれば嫁の唄はぬ田植かな　京都　池田美都
ふりしきる雨も厭はぬ田植哉　三重　莊司種
百歲のおきな田植の主かな　京都　岡澤仲子
雨晴れて行手〲の田植哉　福岡　松山光子

新體詩

寂寞　人見東明

一

魂に迫るいたき思ひに
たへかれてひとりさびしき
夕ぐれを櫟ばやしに
わけいりて森のにほひに
咽ぶとき、小鳥はなちぬ
梢より。

二

朽ちはてゝ闇にこぼれし
花のごと、胸をめぐりぬ
血もかれて、生より響し
白鳥のほろびのちから、
わが靈にふかきひびきを
おこさしむ。

三

いま鳥のむくろは草に
埋れて、終焉のひゞき
木につたへ木々は惱き
仄なる太息もらしぬ
香となりて、森はわびしき
死のすがた。

四

死相ある森のにほひを
靈にかぎて、痛き思ひは
わが胸に淋しくさしぬ
かくてわがこゝろは鳥の
なきがらを葬り埋めぬ。
塚のごと。

五

あゝかくて滅びのちから
胸ぞこに深くえられて
寂寞の思ひにたえて
森をこへ野路へはしれば
靑空にわびしき光して
星ながる。

○和歌俳句短文新體詩募集

吾が敬愛なる愛讀者諸姉よ時下綠陰の下逍遙に好時節涼風の來る處自然と名吟佳作を成すに絕好の節たり、諸姉よ此季を利し大いに作り多大の佳作を得て左の事項により陸續投せられん事を冀ふ

回數	種類	題	選者	締切期限	發表期日
三七	新體詩	隨意	編輯局同人	七月廿日限	八月五日
五〇	短文	同			
三〇	俳句	七夕　帷子（羅等の）	內藤鳴雪		
五九	歌	朝顏　奥村五百子女史を思ふ	大口鯛二	七月卅一日限	

附記　一二三等當選者には美しき扇子其他の物品を贈呈すへし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

商品案内表無代送呈

商品概要
金銀時計類及附屬品・眼鏡類
寶石入指環・金銀盃
茶器類・洋食器・七寶花瓶
賞金國美術裝飾品各種

大勝堂
東京銀座通尾張町
電話新橋二二六四番

交際の華 流行の魁 一名編輯帖
稿帖

特價
四百枚張金貳圓　廿錢郵税拾五錢
二百枚張金壹圓　參拾錢郵税拾錢

貴婦人令孃が家庭及學校に於て呉服類の小切を集めて『ブック』に貼附するは試に興深く奥床しきわざなり此『ブック』を名て稿帖と云ふ、本帖に關する各新聞雜誌の好評は孰も皆其案の奇抜にして製本の華麗なるを激賞し婦人社會に於ける將來唯一の流行品たるべしと斷ぜらる、三越呉服店を初め各呉服店書店にあり（振替貯金口座八六〇二）

發兌 東京麹町上六番町 電話番町一五八八 瀬川書房

帝都唯一
學生袴
日本橋區蛎殻町
永井商店
電話浪花一八四一

銀牌受領
二五共進會
宮内省御買上ノ光榮ヲ得タリ
パール
香油
愛スベキ香氣ヲ有シ毛髪ニ適シ光澤ヲ保ツ逸品ナリ
日本發賣元 東京平尾分店

女子文壇

三十八年一月創立

女子文學研究最好雜誌
●三卷第九號　七月一日發兌

每號選評
文學士沼波先生。廣津柳浪先生
巖谷小波先生。河井醉茗先生
佐々木信綱先生。山中古洞先生
其他編輯局諸氏

▲懸賞投書募集項目（毎月十五日締切）
●敍事文 ●抒情文 ●評論文 ●俳句
●小説 ●新體詩 ●書翰文 ●和歌
●新歌謠 ●短文 ●笑話 ●圖畫
●文藝遊戲（其他誌友諸嬢の思ひ〳〵の事）

賞品
●甲種（一等 拾圓 二等 三圓 三等 八拾錢 一四等 五拾錢 五等 三拾錢）
●乙種（一等 五圓 二等 壹圓 三等 五拾錢 一四等 貳拾錢 五等 拾錢）
▲詳細の事は本誌に就て御覧を願ます▼

毎月壹回發兌（外に年四回 二月五月八月十一月 増刊）

口繪 三宅克己先生揮毫 水彩畫（石版數度密刷） 繪端書 繪手本 寫眞版 挿入數葉

定價 最廉無比 壹册（大判百册頁）金拾錢 郵税壹錢
●半年分（増刊共八册）郵税とも前金八拾四錢
●壹年分（同十六册）同 前金壹圓六拾錢

發行所 東京市京橋區大鋸町十一 振替口座第壹七貳九番（電話本局六百七番） 女子文壇社

▲賣捌所各地到る處にあり、若し最寄に取次販賣店なくば發行所へ購讀御申込を乞ふ

ムスク香水
（大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢）
○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり
東京日本橋區本石町四丁目 ホーサン石鹼本舗
本舗 松澤常吉

美術造花材料
各女學校御用
シホン
附屬品并に造花器械類一式
東京市日本橋區横山町一丁目十六番地
天野卯兵衛
電話長浪花一六四三番
振替貯金口座四九七〇番
營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御添へ御申越被下度候

最上醬油元祖

○宮内省御用達也
○開業二百六十三年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絶す
○日本一の釀造高也

釀造元 下總銚子町 濱口合名會社（振替貯金五〇二二）

第四回新學期開始
女學講義錄
會員大募集 博覽會開會中入會金全免

●本會は下田棚橋津田諸女史の贊助に成り講師は皆斯道專門の大家也●會費最も低廉都會一ヶ月の遊學費にて全期を了はるを得
●中央新聞曰く講述何れも平易にして親切なれば初學の女子の講習には最も可なり。●報知新聞曰く天下講義錄多しと雖も實益と趣味と併せ有すると斯くの如きは稀れ也 ●都新聞曰く講義平明にして用意親切なり

父母の膝下に在て高等女學校全科を僅に二ヶ年で修了する事が出來ます講義は文部省令に據れるは勿論更に家庭の實用に適する科目を加へ丁寧懇切に講述します
●規則書申込次第直に進呈すべし●

大日本淑女學會
東京神田南甲賀町十番地

ラクダ石鹼

ラクダ印麝香石鹼は高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故一度使用せば其香氣五日間馥郁としてかをりを失はざる一大特點を有す
定價 大形廿錢 小形十錢
東京日本橋區本石町三丁目
芳香藥種問屋 本舖 井上太兵衛

佛國

キセロル會社化粧品

キセロル會社は佛國第一流化粧品製造所なり。其製品は各一品に限られ他會社の如く種々の直段を付し種々の名稱を付して販賣することをなさず、品質の純良、製品の統一、價格の一定はキセロル會社に於て初て之を見得べし。三越は今回特約店として販賣することとなれり。

クリーム	一個	五十錢
石鹼	一個	五十八錢
煉齒磨	一個	六十錢
齒香水	一瓶	五十五錢
洗面用香水	一瓶	七十五錢
粉白粉	一箱	七十五錢
此他紳士用として		
頭髮用香水	一瓶	一圓
萬能香水	一瓶	七十五錢
コスメチック	一本	四十五錢

夏衣裳御調製の御方

の御案內にもと、最近流行品を圖解せる美麗なる冊子［夏衣裳の卷］を發行仕候。御一報次第一冊を限り御送呈可申上候。

タオル浴衣

大人用一枚三圓三十錢より四圓二十錢
小兒用一枚一圓五十錢より二圓五十錢

本年の新製品として、かくの如く好評なるはなし。タオルを以て浴衣を製したり、世にトルコ浴衣とも稱す。こは湯上りに用ゐてもよろしく、寢衣として用ゐてもよろしく、海水浴冷水浴用にも適し、衛生には特殊の効能ありといふ。特に小兒用は寢冷のせぬ特効ありとてこれ亦好評。御注文の節は寸法を御記し被下度候。

三越呉服店

東京日本橋區駿河町
振替貯金番號三〇〇番

婦人用携帯結髮化粧具

一揃　九圓五十錢

こは萬事御婦人の便利を計り、旅行中にも事缺かざる樣、婦人用化粧品一切を網羅したる化粧箱に御座候。本年三越の賣出したるものにして、其便利なること、其高尚なることを以て好評を博したるものに候。圖は其一斑を示せしに過ぎず候。

米國

スキフト會社石鹼

一箱（三個入）　五十錢

米國シカゴ市のスキフト會社の石鹼の格安なるは我國の消費者の大に驚かれし事實に候。これ三越が御客樣に對しての微志として、非常なる勉强に基くとに候。一度之を用ゐ給はゞ之を二度し之を三度するは疑ひなく候。

三越呉服店は只管御客樣の御便利を計るに勗め、市內は申すに及はず地方よりの御註文は鄭寧親切に御屆け申上け、御滿足を博せんとを期し居申候。何卒續々御註文被下樣奉願上候。

敬具。

七月六日

東京日本橋區駿河町
三越呉服店專務取締役

婦人用懷中時計鎖

一本　鍍金製　五六圓位
　　　金着　十二三圓位

こは目下大流行の懷中時計の鎖にして、之を頸よりかくるなり、其高尚優美、先つ一本を御買求め御試用くたされ度候。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　玉寶堂

電話下谷(特一九六五番 一二四四番)

○豫定總籤數廿萬本　此景品代價三萬二千圓

確實　福引大賣出し

來ル七月五日ヨリ十六日迄

福引券は同商店にて一圓以上の御買物に對し一枚、一圓を増す毎に一枚宛増呈但し一本も外れは無之候

籤一組分內譯　一等廿圓一本(品)　二等拾圓一本全　三等五圓三本全　四等三圓五本全　五等二圓七本全　六等一圓五十錢券十枚、七等一圓券十五枚、八等五十錢券四十枚、九等廿錢券一四二枚　十等十錢券二一七六枚又は手巾二枚

帝國博品館

東京新橋際　電新二六三三

カメリヤ洗粉

あらひこ

時代の要求により生れたるカメリヤは色白くきめを細かに艶を増し肌を滑かならしむる最新最良の洗粉なり年若き方々のみならず老年の御肌には殊に効驗著し

定價　大瓶廿五錢　瓶入十二錢　袋入五錢　小袋三錢

本舖ライオン齒磨發賣元　東京神田柳原川岸　小林富次郎

最上醬油

キハク印

於聖路易博覽會　名譽大賞牌受領

キハク印醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判てすどーか其あぢのよくてそして經濟てあると云ふことを御ためし願ます

釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門

信略號(キハク)又(ハク)

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七四

○色白く艶をだす最良之化粧石鹸(大形廿錢小形拾錢)

松澤ホーサン石鹸

◎到る所に販賣す(にせ物)あり松澤ホーサン石鹸と御買求を乞ふ

東京本石町四丁目　東京芳香薬種問屋　ムスク香水本舖　松澤常吉

(振替貯金四四四七番)

東京池之端仲町

寶丹

守田治兵衛

◎寶丹は旅行乘船の際は勿論あるひは軍陣練兵等の節は必これをたくはへ時々服してよろしまた風土の異なる地に到り少しづゝ用ふるときは水害あるひは惡き疾に罹るの患なからしむ故に時候の不正或は惡疾流行の土地若は家に到らんとするときは別して怠りなく度々用ひてよろし希くは攝生の諸君必ず常に携帶して大ゐに自他の幸福を得玉はんことをと爾云

◎各地は同姓名あるひは守田堂其他一見視誤しやすき體裁にせる類似これあり候あいだ御購求の際は東京池之端仲町貳拾七號所有地守田治兵衛と商標御撿認の上何卒御愛顧奉願上候也

寶丹本舖　東京市下谷區池之端仲町貳拾七號所有地　守田治兵衛

新柄　御浴衣地いろ〳〵

紳士淑女毛髮用

御料

カスガオイル

◎到る所の小間物化粧品店にあり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麹町區錢瓶町（常磐橋内）
日本興業銀行
電話〇◎（一、二八〇番　三、三〇〇番　四一番）（特）三七番　一〇二番
資本金壹千七百五拾萬圓
營業科目
一 擔保附社債に關する信託業務
一 有價證券其他貴重品等の保護預
一 有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一 地方債、社債、株式等の發行募集事務
一 各種の信託事務
一 國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一 國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一 法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一 定期預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番　電話本局四九八番
定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
當座預金 同日歩 壹錢壹厘

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社 第三銀行
電話浪花四一一番　浪花四五二番
預金利子
定期預金 六ヶ月以上 年五分
當座預金 百圓に付日歩 八厘
別口當座 同日歩 壹錢
全國送金無手數料
其他銀行一般の業務は便宜取扱可申候

中元賣出し
一日より十六日迄
御浴衣地新柄取揃申候
餘興として辻うら景品呈上（木村屋）
京橋銀座一丁目 木村屋

東京博覽會
出品第三號館織物部池ノ端雪見橋際賣店芝婦人博覽會第二館

七月一日より
中元大賣出し
○御進物用品幷よせぎれ見切反物取揃陳列致置候
日本橋區通四丁目
松屋呉服店 牛山武兵衛
（電話本局六〇八、七一六）

夏用の帯留

最新流行の帯留は圖の如く花に舟浪に千鳥或ひは撫子等の淡白なる彫刻品又翡翠眞珠等の良質品へ白金及金を加へて其の配色よき組を取合せし品夥多取揃有之候
此の他中元贈中の御附番品として恰好たる御髪飾及び御携帯品をはじめ御避暑御旅行用の必要品も夥多本店に散備仕り候へば續々御用命の程偏に奉上候
帯留之價
廿金製花舟彫刻 金貳拾圓
全撫子タイヤ入 金八拾五圓
銀浪千鳥七寶入 金五圓
東京市京橋區尾張町
白牡丹本店
電話新橋五五一番

確實 製造大販賣 卸小賣
●夜具蚊帳（夏冬）ざぶとん
●品質保險附●正札引なし●縱覽御隨意
東京神田區表神保町
矢田商店
電話本局長二一〇八
市内無賃配達
諸官省御用
博覽會賣店
矢田出張店
不忍池畔雪見橋近傍
市内無賃配達
商標御注意

家政百個條（五版發行）
此書は本會が多年の經驗を積みて一般家政上の法則となるべき事共百箇條三百六十七項を一册にまとめ婦人達をして能く家政の法則を心得て家を齊へしめんが爲に發行せるものなり定價拾貳錢（郵送料を要せず）郵便切手代用苦しからず
東京市麹町區下二番町三七
大日本女學會
電話番町千三百三十番

一 御琴三味線
一 胡弓 諸樂器
一 附属品一式
蓄音器
東京神田鍛冶町
菊屋總本店
電話本局二四四九番

主婦の修養
嘉悦孝子、津川梅村共著（新刊）
▲定價金五拾五錢
▲郵税金六錢
本書は女子教育家として斯界に令名高き嘉悦津川兩先生の論集なり、空理空論を避け悉く實際問題を捉へたる處確かに一特色なり敢て世の修養に志しある婦人諸君の座右に薦む
發行所 東京本郷區弓町二の一 平民書房
賣捌 東京堂、上田屋、（大阪）杉本東海堂、中庸堂、（久留米）菊竹

ホワイト印裁縫ミシン
●構造堅牢●使用便利●運轉圓滑●外觀美麗
輸入元
東京神田今川橋際
橫濱市元濱町一丁目
古屋商店

登錄商標 N.R.CO
ゴム裏雪踏
●發賣元 東京市神田區上白壁町九番地（電話本局貳千五百五十參番）今井商店
●販賣所は全國到る所の有名なる履物店にあり（近頃粗惡なる類似品あり商標に御注意を乞ふ）

第五回博覽會賜賞褒賞受領

▲正定價引なし
營業品目
特許竈各種　特許据風呂
特許テンピ　特許水焜呂
實用暖爐　鍋釜品々
日本橋區蠣殻町二丁目十五番地
神田泉町通松永町十八（電浪一一七七番）
名和本支店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

資本金千八百萬圓

東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋 三〇〇番 一五三〇番 三一九三番

同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番

一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日步七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

新着荷 電話番町一六九九

御婦人用
夏肩掛各種
新形帽子
リボン造花
裝飾品種々

牛込神樂坂下
朝日堂

誠實廉價

TAKA-DIASTASE

工學博士藥學博士高峰讓吉先生發見パーク・デビス社製のタカヂアスターゼは多數醫學者及藥學者が化學的並に臨牀的實驗上其效力を確認せられたる有名なる胃腸新藥なり

本劑の澱粉に對する消化作用は强烈なり

而かも每製品强度一定效力永久不變なり

贋偽にして無効なる藥劑を本劑と同等なりと稱して誇大の廣告をなし販賣をなすものあり必ず高峰氏タカヂアスターゼと指定すべく需用者諸君に注意す

我多數醫學大家が發表せられたる本劑に對する實驗報告を集載せる說明書は御要求に從ひ無代郵送す

發賣元 東京南茅場町 三共藥品合資會社

本劑は粉末七瓦入十四瓦入廿八瓦入中瓶入一磅入の各種錠劑(一錠〇・一三瓦)卅錠入百錠入及水劑中パイント入として發賣せり各地有名藥舖にて販賣す

タカヂアスターゼ

小間物 新形新案 續々發賣

新橋際博品館內支店
小川町通東明館內支店
帝國五二館內支店

東京神田區須田町本店
三井屋商店
電話本局二〇七六番

東京勸業博覽會第一號館小間物組合出品部出品及婦人博覽會第二號館出品陳列

廣告

本會ニ於テ從來金錢受領之爲使用シ來リシ印鑑爾今方七分ニテ愛國婦人發行所會計主任ト改刻候條此段廣告候也

愛國婦人發行所

高等御婦人用小間物各種

數代の老舖

美術貴金屬袋物商
東京日本橋區人形町通り
澤田治助
長電話浪花二五六九番

時々新形出來

中元御進物品御案内

最上清酒

世界長清酒壜詰 一合二合四合一升 一打以上化粧箱入
米國產干葡萄箱詰 四十五錢より以上各種
同 角砂糖箱詰 大小各種
滋養菓子 鑵詰瓶詰各種
西洋酒類 箱入及提籠入各種
食料鑵詰食器具藥味類

○其他氣の利きたる御進物品澤山取揃へ置申候間何卒御下命の程奉希上候(御注文品市內御屆可申上候)

東京日本橋區堀江町四丁目(通稱てりふり町通り)
發賣元 高橋商店 電話浪花一五六一番

東京勸業博覽會第二號館酒類ノ部ニ出品

東京市京橋區銀座一丁目
無代進呈 商品案内

○銀側兩蓋之部 流行婦人持
價八圓半 瑞西石入向爪アンクル
價十圓半 同慾石卷上向アンクル
價十三圓半 同蓋三枚慾石卷上向爪
價十四圓 米國中蓋付切天武向爪
價十七圓半 米國中蓋付上等品

○金側兩蓋之部 流行婦人持
價三十三圓 瑞西國十八金側御婦人持
價六十九圓 瑞西十八金側中形紳士持
價七十九圓 米國製十八金中形紳士持
價九十五圓 瑞西18金側形18紳士持
價百十五圓 米國製18金形18紳士持

電話新橋(二三三一)
伊勢伊時計店

產科婦人科 入院隨時
醫學士 佐藤得齋
日本橋大傳馬鹽町拾四番地(電浪二一八三)

眼科專門
診察時間 午前七時ヨリ十二時迄 午後三時ヨリ五時迄
ドクトル 宇良田唯子
神田連雀町十八番地(郵便局前)
▲每月第一日は診料藥價共無料

產科婦人科專門
診察每日午前 入院隨時
岩田病院
淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八

產科婦人科
楠田病院
東京市日本橋區濱町三丁目七番地

小兒科及ビ婦人科
花岡醫院 入院應需
本院(神田區御成街道榮町)
分院(日本橋區通り三丁目)
院長 醫學得業士 花岡和雄

醫學博士 榊順次郎
醫學士 久保徳太郎
醫學士 田代謹二
婦人科產科 每日午前后診察
婦人科的外科 外國留學中
婦人生殖器病
泌尿器病及內科
科一般火木土午後診察

婦人科產科 榊病院
●施診 火木土曜日午後一時至二時
麹町區三番町三三(電話番町三九五)

腦病脊髓病
神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇
神經痛運動障害等
醫學博士 土田卯三郎
●午前 自宅 神田多町壹ノ八
●午後 岩佐病院 日本橋區蠣殼町

婦人科產科 木村病院
○院長 ドクトル 木村順吉
京橋卅間堀一丁目角(電話新橋二六七〇番)

婦人病專門
院長 櫻井克己
櫻井醫院
芝明舟町十九虎門外宮樣前 電話新橋三三二四

小兒病診療
醫學士 內田愼太郎
淺草區福井町貳番地
宅診午前 往診午後
●電話下谷七一八番

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山內科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

峰內科醫院
內科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
神田區西今川町三番地(電話本局三〇一九)

內科一般
午前宅診 午後往診
板垣亨
東京神田美土代町三丁目十九番地
電話本局貳千九百七十番

水原產科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地(電話本局千八〇九番)○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立產婆學校の設あり

內山小兒科醫院
午前宅診午後往診 入院隨時
淺草區下平右衛門町十七番地
柳橋通り(電下一三六五)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各種美術工藝品ハ御注文ニ従ヒ
意匠製作共ニ入念ニ致シ専ラ誠
實ヲ旨トシテ御高需ニ應ジ申候
間何卒御愛顧ヲ奉願上候

東京市下谷區池之端仲町
玉寶堂

宮内省
御用達
飯塚伊兵衛

電話下谷
長九六五
一二四四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洗用 ワツセル

◎此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◎用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシヤツの如きは(拾貳匁)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升の湯に溶解してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價　拾貳匁入 金拾五錢　六匁入 金八錢　袋入二錢

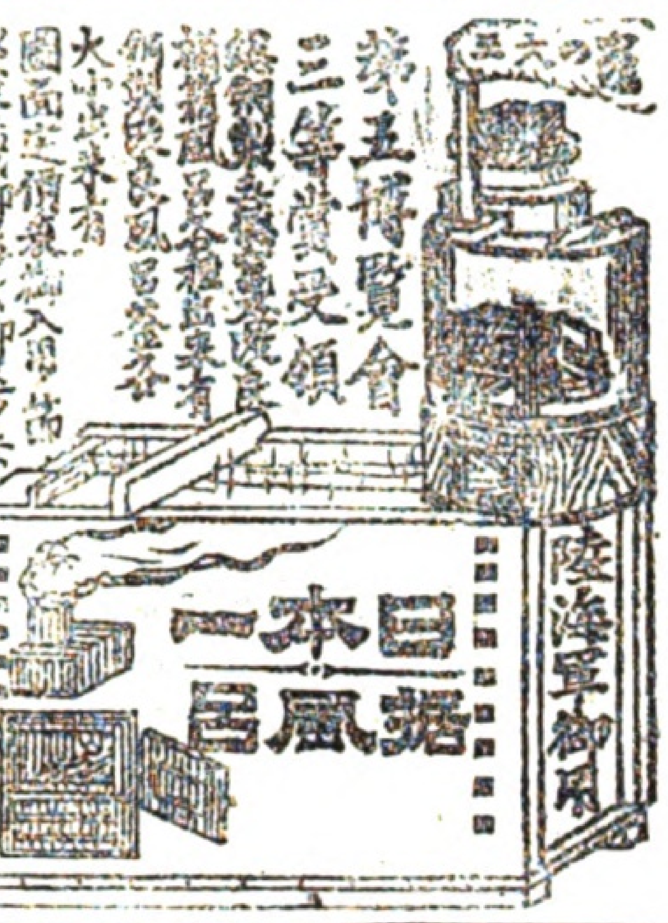
芳香御肌洗粉 ワツセル

◎此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上 金七拾五錢 金貳拾錢　普通 五拾錢 參拾錢 拾七錢 六錢 三錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七二二

英國製ワツセル日本一手販賣元 御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元 **三友商會**



第五回博覽會 三等賞受領

[illegible]

製造發賣元 東京日本橋區通油町十九(電話浪花一四六番) 銅器物問屋 南部鐵瓶販賣 **石川商店**

代理店 京都柳馬場 春井喜助

婦人世界

本誌の記事は常に貴婦人社會の好話題となる

七月一日發行 第八卷二號　一冊拾五錢 郵稅一錢五厘 六冊分郵稅共九拾錢

△口繪 △前田侯爵令夫人△十五人の子女を有せる一家庭△新婚寫眞△令孃寫眞△彩色口繪

◎感心せる奧樣(鳩山春子)　◎弦齋夫人のお料理

◎米國の女中(北村みな)　△御飯の腐りを防ぐ法 △御飯を味よく炊く法 △糟味噌を甘く造くる法

◎六十歲の老女敎師實歷

◎女は如何に男子の人相を觀察すべきか(村井弦齋)

◎我が母(淺野總一郎氏夫人)の苦心實歷談(穗積博士夫人)

◎溫泉と海水浴は如何なる小兒に適するか(加藤醫學博士)

◎嘉悅孝子女史の面影　◎感心なる女學生 市川敎諭

◎佛國貴婦人の日常生活法　◎朝顏を詠じたる古名歌 齋藤弔花評釋

◎懸賞少女繪探し答案募集　◎故鄉(小說)　◎清國貴婦人の家庭生活 竹內定子

◎女子大學生の寄宿舍生活

東京京橋南紺屋町十二 **實業之日本社** 振替貯金六參貳番

補血良劑 スポール無臭肝油

補血劑として稀世の卓効を奏する新藥にして少しも惡臭を存せざるのみならず飲用に適する清快なる香氣を有するを以て婦女子も尙喜びて服用する事を得べし

東京日本橋區本町四丁目 **合名會社島久商店** (電話本局特四九一 電話本局三〇一八)

衣服の手あては入梅へまは 芳香むしよけたんす香

東京三[illegible]堂謹製

○是は貴き御奥の御用品で此度廣く販賣仕昇汞水や樟腦の如くしみ付衣類の染汁を焼く事なく地よはらす蟲及び濕氣を拂い殊に洋服等の蟲害を防ぎ高尚なる香氣を有する特製品に付一度御試用の程偏に希願上升

御注文の節は早速御送附仕候

壹袋廿五錢　一引出し分 拾參錢

麴町區四丁目十五番地 電話番町三百九十七番 富田屋 **櫻井商店**

牛乳ノ主成分ニテ製セル 乳白化粧水 レート

在來化粧水ニハ單ニ皮膚ヲ滑カニスルモノアレドモ未ダ營養ヲ與ヘ且ツ美艶純白ニスルモノナシ獨リ乳白化粧水レートハミルクノ有効分ノミヲ精製シ濃厚ナル香氣ヲモ加ヘ少量ニテ効多ク皮膚ノ細胞作用ヲ活潑ニスルヲ以テ自然純白艶ミシ天然ノ光澤ト色ト彩トヲ與フ

定價 大瓶 金五拾錢 小瓶 金三拾錢

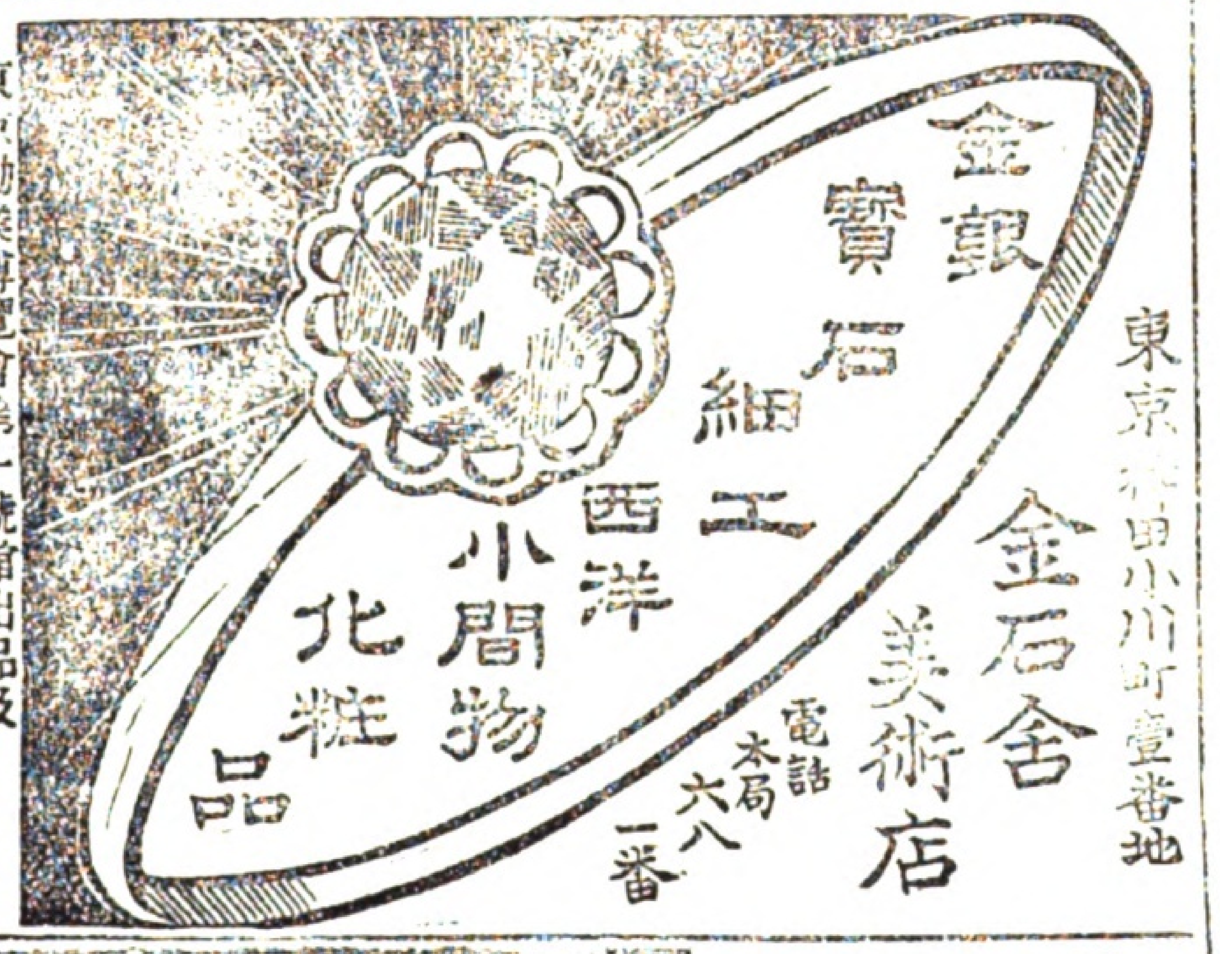
東京 大阪 平尾贊平發賣

中元贈答品いろ〱

(陳列販賣品)

歸省御土產物適當品 其他男女携帶品多數

神田小川町通裏神保町一 **中久商店**



金石舍美術店 電話本局六八一番

東京神田小川町壹番地

東京勸業博覽會第一號館出品及不忍池畔辨天際賣店

袴乃親王

卸部 東京日本橋區長谷川町 美濃礒本店 電話浪花二八五九番

小賣部 本鄉區本鄉五丁目 美濃礒本鄉支店 電話下谷一四一五番

淺草區諏訪町 美濃礒淺草支店

日本橋區佐內町 美濃礒佐內町支店

神田區小川町 美濃礒神田支店

深川高ばし際 美濃礒支店

芝區新櫻田町 小田商店

牛込區神樂町一丁目 伊澤商店

四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

スコット乳菓

小兒ノ發育期ニ用ユレハ其効驗ノ最モ著明ナルヲ證スルモノナリ

說明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号へ

スコット乳菓部へ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス

代理店 横濱市山下町廿八番館 **米國貿易商會**

明治四十年七月五日發行(每月五日一日二回)(定價金三錢 一ケ月六錢 郵稅不要 廣告料一行金六拾錢)發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 大久保高明 發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人發行所 印刷所 東京牛込區市ケ谷加賀町 秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

○總裁殿下支部御台臨　新潟支部總會開催に付本會　總裁殿下は岩倉會長澁谷評議員等を從へ七月一日上野驛御出發御台臨あらせられたり、御見送りの人々には

近衛貞子　島津田鶴子代　山内禎子代　谷玖滿子
三井苞子　井伊常子代　阿部篤子　松平八百子　花房千鶴子　尾崎八重子　松平須磨子　黑木百子　千家俊子　波多野爲子　濱尾作子　新山雅樂子　豐島文子　片岡たま子　長岡芳子　中山幸子　柳谷千代子　松村雪子　福島貞子　鄕濱子　跡見花蹊　有島幸子　坂井春子　三井照子　關郁子
齋藤勝子　杉本幸子　渡邊源子　飯島鶴子　横幕むら子　中澤くめ代子　桑原朝子　岡本きみ子　馬島園子　飯塚里子　志賀八重子　秋間ため子　柘植愛子　江崎うた子　淺尾忠子　山本すゞ子　濱田すて子
佐藤事務長代務　高松仝上補助　其他事務員等

追て御歸京御豫定は七月七日午後十時五分なり

○新潟支部總會と鐵道割引　鐵道廳にては、今回の新潟支部總會開催に付き、右参列會員に七月三日より六日迄田口直江津間各驛より長岡行七月九日迄通用の二、三等官線二割引社線五割引往復乘車券を發賣する由なり。

○感謝狀及物品贈與の件　日露戰役中及び平素斯會のため鞠躬盡力せる特別會員中左記十六名の支部長に對し金側懷中時計一個に感謝狀を添付して贈與せり

感謝狀

愛國婦人會何々支部長囑託以來熱誠會務ニ盡瘁セラレ其効果トシテ支部ノ隆昌今日アルハ本會ノ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ
總裁殿下ノ台聞ニ達シ聊カ感謝ノ意ヲ表スル爲金製時計壹個ヲ贈呈ス

年月日　　會長名

人名

千家東京支部長　河島北海道支部長
大森京都支部長　周布神奈川支部長
服部兵庫支部長　荒川長崎支部長
大久保埼玉支部長　深野愛知支部長
李家靜岡支部長　西澤青森支部長
村上石川支部長　渡邊山口支部長
小野田香川支部長　檜垣元岡山支部長
江木元熊本支部長　大藤元北海道支部長

○蕃害遺族救護の急務　由來本會は專ら軍人軍屬の遺族及廢兵の救護を事業の目的として起りたる者なれども臺灣支部に於ては本項の如き目的の救護は至て少く却て蕃界勤務の警察官以下の遺族を救護とする場合多きを以て昨年特に同島に限りて同支部獨立の經費により、之れか救護に從事する事を本會に於て決定したる結果着々其施設を行なはんと欲するも同支部現在の財政にては到底十分の目的を達するを得ず依て爾來之れが準備として會員の入會を奬勵勸誘し或は蕃產交換事業を開始する等專ら財源を得んと努めつゝあるも未だ十全の結果を得ずして今日に至れり然るに蕃界は隘勇線の前進より屢々蕃族と接觸の機會多く彼の獰猛暴惡なる蕃人と戰ふの外猖獗なる氣候風土とも戰ふの結果は吾が忠實なる警察官以下の戰死若くは病死者の漸く多からんとする時に際し其遺族廢官となりし者に救護事業の完からざるは偶々戰士をして後顧の憂となさしむるの因とならざる乎寔に痛嘆に堪へず茲に於て同支部は速に其の準備を全ふし蕃界勤務者をして一日も早く比較的後顧の憂なからしめ一層の奮鬪を庶幾するを得ば本島經營上に偉大の効果を及ぼすべく依て今回擧行せる慰問品義捐募集の好成蹟に徵し此機會を利用して廣く世の慈善家諸氏に訴へ豫定の効果を全ふせんと計畫せり

○救護上の一新例　山口支部下に於ける被救護員の數は昨年度に於て三百五十餘名なりしが本年に至り百八十餘名を減少すべき模樣なり其理由は本縣下にある遺族廢兵の貧困者は獨り本會の救護にのみ待たずして廣く有志者の慈惠救援に賴り且縣廳に於て大に盡力する處ありて各自に相當の職業を授け適當なる職業を營ましめ且つ資本を供給するの途を開けり是れ自然被救護者を減ずるに至れる次第なり同支部の語る所に依れば本年以後は追々被救護員減少するに至るべき方針なりと

○支部經理事務整理の件　本部會計の整理に付ては定欵に基き法定の監事を設けあるの外平常にありては佐藤正、高橋新吉の二氏をして監督しつゝあるも支部の會計經理にありては未だ一定の監督監査の方法の備りしものなく各個別に整理しつゝありし處今回其取扱を確實にせんがため六月廿日付愛甲第八九號を以て岩倉會長より各支部に向け左の通り通牒を發せられたり

拜啓陳者本會々計の經理を確實にするは最も肝要なる事柄にして已に本部に在りては定欵に基き監事貳名を置き（實際夫人にして其責任を實行するは困難なれば三井監事の名代として全家總取締たる早川千吉氏其衝に當り現實檢査を執行す）猶平常の經理に就ては佐藤正、高橋新吉の二氏をして監督を爲せり然るに支部の會計經理に任りては未だ一定の監督監査方法を規定したる者無之各支部に於ては夫々取締の方法御設け可有之とは存候へ共將來一層會計經理を確實ならしめんが爲め之れが職責を盡すに適當なる者を選定し支部の會計監督を囑托し便宜幹事部の會計經理をも併せて監督檢査相成候樣致度而して其檢査の成蹟は其時々本部へ御報告相成候樣致度此段特に申進候草々敬具

○富山支部遊說日記（三）

富樫眞壽子

五月四日午後二時より婦負郡櫻谷村高見萬四郎氏方にて開催支部よりは永井副支部長を初め數名の幹事出張せらる幹事部よりは幹事三名出席聽衆百五十餘名例の如く講話を了りたるは五時なりき直に富山に歸へりたり

五月五日午前九時旅館出發石坂上新川郡幹事部長石野幹事加藤評議員岡田幹事同行同郡上瀧町瀧見座に到りたり同町に入るや役員數名會員十餘名出迎はれたり午後三時開會來會者約二百五十名餘同五時半閉會せり一行は富山に歸れり時に同六時半なりき

五月六日午後一時旅舍出發石坂幹事部長石野幹事支部幹事岡田大島岩田稻葉の上新川幹事同行東岩瀨町盛立寺に到る同二時開會來會者約七百餘名例の如く講話をなし閉會を告げたるは五時なりき一行は直に富山に歸りたり

五月七日午前八時より富山市東別院に於て故奧村五百子刀自の追弔會を兼れ講話會を開催せり川上顧問初め山村二部長大浦中學校長山本中佐關野代議士前田縣賴郡長等列席支部主事加藤氏以下評議員幹事四十餘名其他各郡幹事部長等出席せらる一般聽衆約七百餘名殿庸に讀經囘向を了へ後例の如く講話十二時閉會せり同日午後三時三十五分發列車にて高岡市演說會場なる商業會議所に向ふ加藤服部及び射水郡幹事長谷川氏同行せらる停車場には堀幹事部長を初め十數名の幹事出迎はれたり午後四時半開演す聽衆約千餘名殆んど立錐の餘地なし六時半閉會二十餘名入會せり此夜堀市長方に一泊す

五月八日午前九時より市內御旅坊に於て開會永井副支部長初め十數名の幹事出席斡旋せらる聽衆約千餘名例の如く講話し十一時半閉會せり午後一時より高等女學校師範學校生徒のため一場の講話を試みたり永井一部長初め學校職員生徒幹事十數名其數約八百餘名三時閉會せり

五月九日午前八時より市內乘光寺に於て開催永井副支部長を初め幹事數名出席聽衆約五百餘名十一時閉會せり十二名入會せり午後二時より四別院に於て開會支部職員悉皆出席聽衆三千五百餘名さしもに廣き堂宇殆んど立錐の餘地なし例の如く講話し四時半閉會せり

五月十日午前九時旅舍出發疋田山田長谷川幹事酒井事務員同行婦負郡八尾町の會場なる聞名寺へ向ふ同町に入るや桐野幹事外數名の出迎を受けたり尙同郡顧問及び幹事出張臨席せらる聽衆者約六百餘名午後五時閉會直に歸富したり

五月十一日午前旅舍出發加藤評議員伊藤幹事酒井事務員同行中新川郡上市町に向ひたり正午着齋藤岡田四田の諸幹事及び會員の出迎を受け石屋旅館へ入る午後三時より常福寺に於て開會聽衆約四百餘名例の如く講話し閉會したるは五時半なりき

五月十二日午前九時旅舍出發新川郡滑川町に向ふ會場は養照寺にして十一時着松山郡長初め奧田助役幹事會員三十餘名來訪せらる支部よりは疋田幹事出張午後一時半より開會聽衆約七百餘名例の如く講話をなし三時半閉會せり一行は直に上新川郡新庄町に向ひたり幹事部よりは石坂幹事部長石野幹事金岡幹事支部よりは關野幹事出張せらる今枝町長初め有志數名出席斡旋の勞を執られたり午後七時半開會聽衆約三百餘名講話を了し歸宿したるは十時半なりき

五月十三日午前九時富山發永井支部長加藤評議員服部岡田兩幹事橋本事務員同行下新川郡魚津町に赴きたり同町端には幹事十數名事務員待受けらる旅舍に着したるは十二時なりき午後一時より照善寺に於て開會最初に故奧村刀自の追吊會を殿廳に營まれ引續き講話會開催せり聽衆約九百餘名閉會を告げたるは五時なりき永井副支部長加藤評議員橋本事務員は歸富され酒井事務員來魚せられたり當町は會員も多數あり且つ戰時中も他に卒先して活動し町長藤田佐太郎氏大に盡力されしを以て能く一致して事をなし眞に有望の地たり當日荒井顧問初め同幹事部長其他各分區委員列席頗る盛會なりき

○山形支部遊說日記（二）

野中彌知

四月廿一日　午前八時三十分酒井幹事後藤郡書記と共に腕車にて植山村に向ふ十時多福院に於て開會聽衆大人のみ四百餘名後藤郡書記開會の辭を述べて畢て講話零時閉會當日幹事部より毛呂幹事出張せり零時三十分腕車にて押切村に向ふ二時耕福寺に於て開會聽衆四百五十餘名後藤郡書記開會の辭を陳べ了て講話四時閉會後富豪家五十嵐太郎氏宅に投宿夜に至り家族へ座談を爲せり

四月廿二日　午前九時五十嵐氏出發腕車にて榮村へ向ふ佐藤祐太郎氏宅にて齋饗饗應を受け午後二時淨宗寺にて開會四百五十餘名後藤郡書記開會の辭を陳べ畢て講話四時閉會後直ちに余目村に向ふ長村旅館に投ず當日幹事部より毛呂小松幹事出張せり

四月廿三日　午前十一時余目村を發し新堀村に向ふ富豪家阿部孫左衛門宅にて晝飯の饗應を受け午後二時慶善寺に於て開會聽衆四百餘名後藤郡書記開會の辭を陳べ畢て講話四時閉會直ちに余目村河村旅館に投宿せり

四月廿四日　午後二時余目小學校に於て開會聽衆六百五十餘名西川郡書記開會の辭を陳べ次に講話四時三十分閉會後直ちに腕車にて常萬村より余目旅館まで出迎の富豪家日野保氏と共に同氏に投宿同夜同家の一族を集め座談を爲せり日野家は當東田川郡中屈指の資產家にて一家擧て公共心に富める良家庭なり當日は毛呂小松兩幹事西川郡書記日野氏まで同行直ちに歸藤せり

四月廿五日　零時毛呂山本兩幹事日野未亡人　幹事後藤郡書記と共に腕車にて大和村に向ふ今野氏に少憩午後一時三十分小學校に於て開會聽衆五百餘名後藤氏開會の辭を陳べ畢て講話四時閉會後藤島に引返し阿部旅館に投宿せり

四月廿六日　午前十一時西川小松兩幹事山本教育會幹事と共に狩川村に向ふ當日は適日來山形へ出張中の毛呂郡視學歸途出席午後一時小學校に於て開會聽衆約六百名山本氏開會の辭を陳べ畢て講話四時閉會後西川幹事山本氏と共に添川富豪家鈴木孫左衛門氏宅に投宿せり當夜同氏一族を集め座談を爲せり山本氏は晩餐後歸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

藤せり鈴木氏は夫妻共に公共家にて會員多數を募集せり夫人は幹事にて有功會員なり

四月廿七日　午前六時鈴木夫人の案內にて西川幹事當日早朝藤島より出張の小松幹事伊藤郡書記と共に羽黑山に登山同十時三十分羽黑發伊藤氏と共に西田川郡鶴岡町に向ふ零時三十分蕉子旅館に投す午後一時仝幹事部に於て開かるゝ二十七八年戰死者井與村女史追弔會(常念寺)に臨み講話を爲せり

四月廿八日　午前十時三十分加賀山幹事毛呂郡視學と共に黑川村に向ふ午後一時三十分小學校に於て開會聽衆六百餘名毛呂氏開會の辭を陳へ畢て講話四時三十分閉會後直ちに鶴岡町蕉子旅館に投宿せり加賀山幹事毛呂氏は歸藤せり

四月廿九日　午前十時藤島氏より出張の西川幹事毛呂郡視學本郷村より蕉子旅館迄出迎の難波村長と共に仝村に向ふ午後一時開會聽衆五百餘名毛呂氏開會の辭を陳へ畢て講話同四時閉會後直ちに鶴岡町蕉子旅館に投宿せり西川幹事毛呂氏は歸藤せり

四月三十日　午前十時關原幹事部長西川幹事と共に藤島に向ふ阿部旅館に投す午後一時三十分郡會議事堂に於て聽衆約六百名關原顧問開會の辭を陳へ畢て講話四時閉會阿部旅館に投す

五月一日　午前十一時西川加賀山兩幹事西川郡書記と共に泉村に向ふ午後一時三十分開會聽衆三百餘名西川氏開會の辭を陳へ畢て講話四時閉會後阿部旅館に引返せり

五月二日　午前十一時加賀山小松兩幹事西川郡書記と共に十六合村に向ふ午後一時開會聽衆六百餘名西川氏開會の辭を述へ次に講話半ばにして暴風起り聽衆狼狽騷擾甚敷大聖を發し以て鎭定し講話を繼續するに忽ち青天無事閉會せしは四時十分なりき直ちに西田川郡鶴岡町より藤島迄出迎の戸澤郡書記と共に仝町に向ふ蕉子旅館に投宿せり

五月三日　午前八時小宮幹事部長風間駒林皆川幹事と共に町內遺族廢兵を慰問し十一時歸宿午後二時常念寺に於て開會聽衆六百餘名小里郡視學開會の辭を陳へ畢て講話四時二十分閉會後遺族廢兵と共に講話會を催し其後町村長と共に再び講話あり當夜蕉子旅館に投宿せり仝夜東田川郡書記後藤氏迎に來り同宿せり

五月四日　午前八時三十分關原幹事部長酒井幹事後藤氏と共に東田川郡藤島に向ふ九時廿分着郡役所に立寄りたり直ちに西川加賀山兩幹事後藤氏と共に淸川町に向ふ十一時着矢口旅館に投す午後二時觀音寺に聽衆約三百名後藤氏開會の辭を陳へ次に講話四時閉會後西川加賀山兩幹事後藤氏と共に矢口旅館に投宿せり是にて東田川郡遊說終了

五月五日　午前六時淸川を發す前日同所迄見送りし西川加賀山兩幹事と告別後藤郡書記と共に七里中の道程を腕車にて新庄に向ふ同所迄支部より出迎の小倉事務員と共に同驛零時三十分發上り列車にて山形に向ふ三時着松山旅館に投宿せり當日後藤氏と告別

五月六日　午前九時より午後一時迄暴風雨を侵し遺族を慰問し同三時第一小學校に於て開會聽衆僅に百五十餘名木村主事開會の辭を述べ次に講話五時閉會當日出席者の重もなるは馬淵支部長岩本佐柳兩副長新關三浦兩氏を始め評議員七八名なりき

五月七日　午前九時より十二時迄遺族を慰問し午後二時第三小學校に於て開會聽衆四百餘名木村主事開會の辭を述べ次に講話當日は馬淵支部長岩本佐柳兩副長新關三浦氏等を始め評議員七八名出席せり

五月八日　午後二時市の中央なる專稱寺に於て開會聽衆千五百餘名岩本副長開會の辭を陳べ了て講話五時閉會當日は馬淵支部長岩本佐柳兩副長新關三浦氏を始め評議員十有餘名出席せり六時より知事官舍に於て晩餐會あり是にて山形支部遊說終了

○東京支部

○神田區幹事部に於ては東京廢兵院慰問として幹事橫濱武尾子、男爵夫人有地捨子、齋藤爵子、中澤久米代、藤井てい子、小原ろく子、鈴木美知子、馬島園子、山本春々子、原みき子、長竹くに子、加茂とみ子、井上いま子、等の各婦人及び書記魚井重太郞は本月十八日三遊亭一派の藝人を伴ひて東京廢兵院を慰問し娛樂室に於て午後一時より廢兵慰藉のため開演したるが圓遊の地獄めぐりを始め福鯛遊の百面相、遊雀の山吹の里其他柝屋福三郞の長唄西洋手品等重もなるものにして何れも特技に從ひ面白く狗廢兵田村千吉氏の如きは護膜車上に橫臥しつゝ絕えず嬉し氣に笑で劇る元氣に見え各廢兵等の喜びも亦一方ならずして午後六時散會したり。◉赤坂幹事部に於ては廢兵幷に遺族救助の資に充つる爲め六月廿二、三、四日の三日間仝區演伎座に於て慈善演藝會を催せり初日には近藤顧問開幕前に發起人を代表し一場の挨拶を述べ終て午後三時頃より演劇を開始せり狂言は初幕(鏡山舊錦繪)二幕目は(愛國美談)大切(京鹿子娘道成寺)等に加へて仝區林、春本の兩家より寄附に係る藝妓の手踊り等にて中々に盛況なりき殊に愛國美談は斯道の達人竹柴氏に依りて成りたる事實劇にして演者又大に勉め同情ある懇篤な觀客に與へたり廿四日には廢兵諸氏を招待し特に院外娛樂として充分なる慰藉を呈せり因に三日間とも發揚者へは紀念の團扇を配付せり

地方支部狀況

○栃木支部　近日の內に設立すべき孤兒院は、收容員數に依り直ちに開院の目的にて、孤兒收容方を足利郡幹事部に申込みたり。同郡にては各町長に通牒したるが、孤兒收容當時の費用其他に付ては各支部とも同樣なり

○群馬支部　役員會を六月廿四日午後一時より柳町臨江閣に於て開きたるが、出席者は有田支部會長以下四十餘名、來年一月總會を開き、總裁宮殿下の御臨席を仰ぐ件其他の協議せり。

○京都支部　六月十九日午後三時より府廳內議事堂に目下滯京中なる同支部各郡幹事部顧問たる各郡長井に警察署長を招き、大森支部長、島田、中澤兩副長、木下、鳥海兩評議員及八田主事臨席し、同會の救護事業を從前通りになし置くか又は各郡に授產的救護の新事業を起すかに就て協議を遂げ、五時頃より一同を支部事務所に案內し、附屬事業たる帽子製造の狀況を縱覽せしめたる上樓上に於て晩餐の饗應をなせり。

○三重支部　今回本會に於て特派孤兒院同樣の者を設置し、同會の主旨に基き下士以下軍人遺族中孤兒にして他に扶養をなすべきものなきものを救養せんと、目下計畫中に付き、之が必要上各其部內に於て入院希望者取調べの手續をなすべく本支部より各郡市へ照會せり。

一　孤兒院は東京市に設置する事。

一　孤兒院在院中一切の費用は本會に於て負擔の事。

一　各郡より上京せしむる旅費は支部にて負擔の事。

○石川支部　六月十九日午後一時より金澤市西町金谷館に於て仝部幹事會を開會せり、席上に於て支部長村上須磨子は通殺舉行せし招魂祭當日に於ける各幹事の勞を謝し、夫より總會へ列席せし諸種の報告をなし、其際會長より各支部とも日を追ふてます〱盛大に赴きしも戰後會員の意氣消沈したれば、之が爲め斯會の衰退を見るが如きとなきやう盡力ありたき旨の傳言を告げ、夫より續て計畫中なりし故奧村五百子の追弔會は來月七日同市新別院に於て行ふ事を決定し五時散會せり。

○熊本支部　六月例會を去る十七日午後一時より赤十字社熊本支部に於て開會す。河內山主事開會を告げ、尙組高等女學校敎師築山順子氏料理法の講話あり、次に南木大震師精神修養に就ての演說あり、了つて河內山主事會務報告あり、午後四時散會せり。因に當日は細川侯爵家令孃志津子氏にも出席せられ、其他の出席者は押川支部長、石原支部副長を始めとして七十餘名ありき。

○故奧村刀自の肖像　當家會員竹平房子氏(東京)は故奧村刀自を敬慕のあまり今回特に刀自の肖像を畫かれ東京支部に寄附せられたり。

○韓國本部　今回會務擴張及び駐剳軍隊慰問等便宜の爲め日本赤十字社韓國本部と共同して目下要務の爲め出京中の本部主事大橋統監府囑託は此程吉澤商店より嶄新にして興味ある活動寫眞を購入したるが六月廿五日夜東京廢兵院諸氏慰藉の爲め同院娛樂室に於て右活動寫眞會を催したり。當日は附近遺族廢兵鵜原支部長諸氏をも招待し、又男木大將夫人其他役員諸氏も參觀せられたり。又翌廿六日夜は神田一ツ橋通帝國教育會樓上に於て同樣の催しあり附近遺族廢兵と韓國留學生とを招待せり。因に韓國に於ける愛國婦人會は昨冬以來會務擴張に努めたる結果在留本邦婦人韓國大官婦人、紳士族婦人等の贊成入會する者多く隨つて日韓婦人間の社交上にも尠從少からされば伊藤統監に於ても大に同情を寄し居らるゝ由尙韓國本部長は鶴原總務長官夫人、副長は加藤宮內府顧問夫人、兒玉統監府書記官夫人、救護部委員長に目賀田財政監督長官夫人等なりと。

愛國美譚

○心の錦

其身には襤褸を纏ふとも、其心にして錦なりせば、單に其外見をのみ錦にせる人々に優ること萬々なり、況や其心は腐りてありながら、道ならぬ富を得て、身に錦をまとふ者に比べてをや。藻鹽やく讃岐國丸龜市に三宅せい女となんいへる九尺二間なるいぶせき家に、さゝやかなる店をひらきて、一文菓子をひさぎつゝ細き烟を立てけるが、斯る境遇の人にも似げなく、いみじくも公共の精神に富み、慈善博愛の心がけ篤く、公共慈善の事としいへば何時も犬馬奔走の勞を惜まざるのみならず、貧者の一燈をさへ捧げて、人々を感ぜしめしこと度々なりき。日露戰爭の起るに當りてや、丸龜師團の出征毎に之を勵まし送り、傷病兵の歸着毎に之を慰め迎へ、如何に雨はふるとも風は吹くとも、縱し夜半なりとも、其度毎に遂に一度も缺かせし事なくして、畢に凱旋を歡迎するまで引續けてけり。啻に是のみならず、燃ゆるばかりの忠愛の心は、寤寐にも奪去られず、眞心をこめて御國の戰捷を祈り、將卒の無事を願ひて、形ばかりの神棚に燈明を捧げしこと、戰時十九個月の長き間曾て一日も怠らざりきといふ。我が愛國婦人會に入會してよりは、毎日必ず五厘づゝを神棚に貯金して會費に充つゝあり。又鼠を捕へて賣りし金を貯へ、今は[illegible]餘になりたるが、是れは是非とも公共慈善の事に使用せんことに定め居れりとぞ。斯る境遇の嫗にして、かくも美しく心のかゞやける人、またも何處にか之を求むべき。我會の遊說員富樫女史は、曾て此人に逢ひて其が心がけの篤きに感じ、そゞろに暗涙を催したりと語りぬ。

○寡婦の龜鑑

開國以來未曾有の國難たる日露の戰ひにありてや、一度召集の令下りて集ひ來る猛き武士は何れも唯一命を君國に捧げんと決するの外餘事又何物も腦裡に印せざるの氣慨あり、此氣風凝つて發し始めて終始不變の戰果を收めしなり。しかあれど斯く決心をして堅實ならしめたる後へには、內援たる婦人の氣宇又男兒に劣らざるの精華ありたればなり。茲に其精華の模範ともいふべきは、都に程近き埼玉縣大里郡小原村大字鹽十二番地故輜重輸卒小林竹藏氏寡婦みき女二十五年なりけり。竹藏氏は三十七年旅順の大血戰に臨むや、堅く死を決して、遙かに書をみき女に寄せ具に理合を說きて離緣せり。家には老父母あり、愛兒あり、敢て之等を顧みずして、みき女を離緣せる竹藏氏の心事は、如何にありしならん。

氏は翌年一月十七日、周家屯の戰に敵彈の爆裂して傷死せり。みき女之れを聞き舊夫家に馳せ行き、奮然として復婚を請ひければ老いたる舅姑は涙ながらに其請を許しければ、みき女は喜びて老父母と孤兒とを舊にも倍して手厚く介抱しつゝありとぞ。埼玉支部大里郡幹事部より聞き及びぬ。

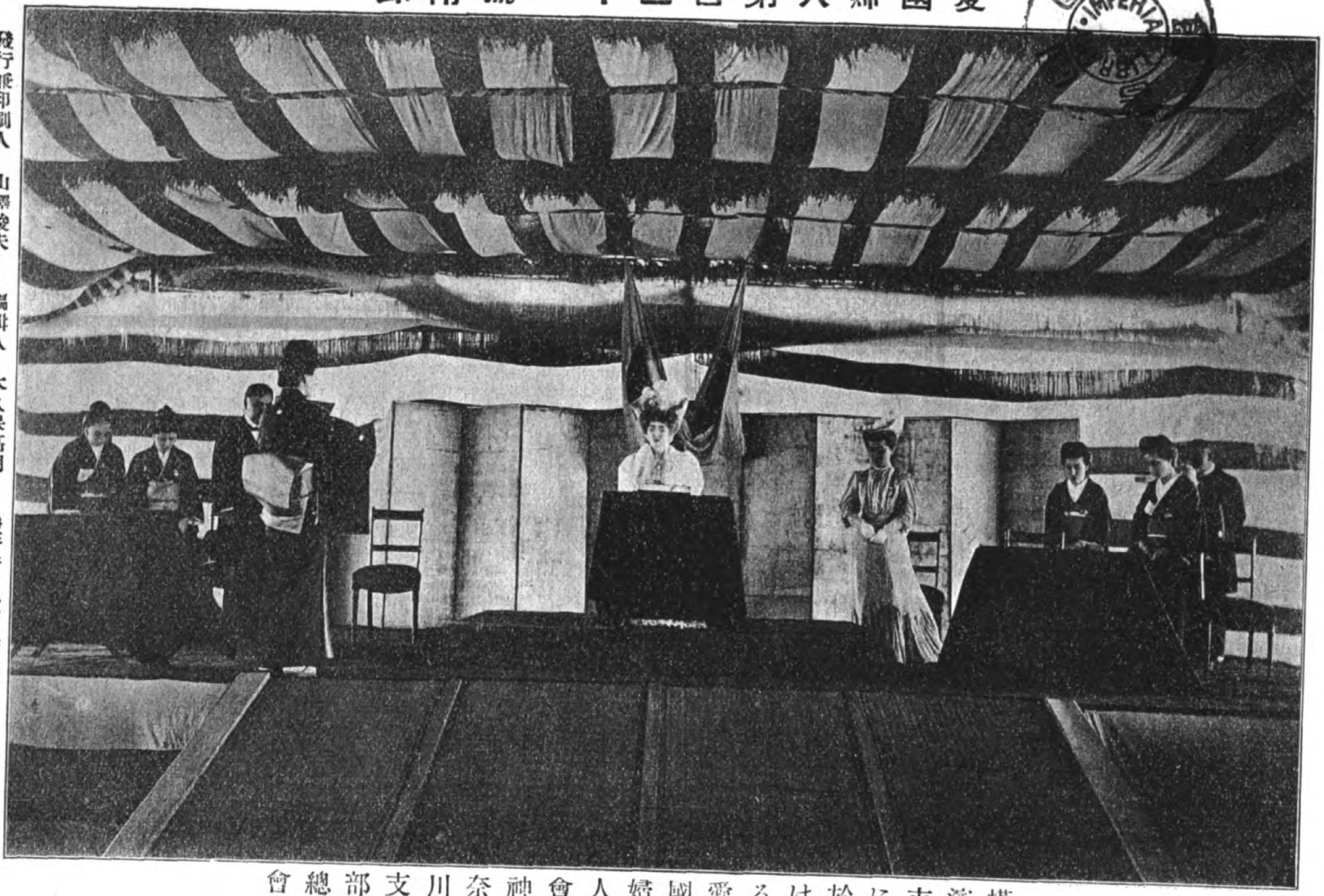
鳴呼みき女の孤節以て模範とすべく、いかに草葉の蔭の竹藏氏も喜びつゝあるならん、洵に軍人寡婦の龜鑑なり。

波風の立たぬ日もなき世の海を
かよわき小舟いかにこかまし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十年七月五日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

IMPERIAL



横濱市に於ける愛國婦人會神奈川支部總會

發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 大久保高明　發行所 愛國婦人會内愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN